

# ばん だい

令和4年度(2022)

所報 No.57

NATIONAL  
BANDAI YOUTH  
FRIENDSHIP CENTER



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家

申し込み・お問い合わせ

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1

TEL:0242-62-2530 FAX:0242-62-2532



国立磐梯青少年交流の家



お待ちしております！

<https://bandai.niye.go.jp/>

国立磐梯青少年交流の家

検索



## 所長あいさつ

令和4年度 所報「ばんだい No. 57号の発刊にあたり  
ご挨拶申し上げます。

令和4年度当初はコロナウイルス感染症の影響でキャン  
セルが相次ぎました。しかし、5月の連休も終わった頃か  
らキャンセルも少なくなり、本所にも少しずつですが活気が  
戻ってきました。

6月上旬には感染症対策を十分に行ったうえで猪苗代フェス  
ティバルを実施いたしました。この日を待ち構えていたように、  
実に1,000名を超える来場者があり、久しぶりに賑わいました。

教育事業では、13泊14日の長期キャンプ「アクティブ・ジオキャンプ」や、  
本県ならではの教育プログラムであり、6回のシリーズで行う「福島子ども未来  
塾」は、一部日程の変更以外は予定通り実施することができました。

この他にも青少年の支援事業である「生活自立支援キャンプ」、青少年教育に  
関するモデル事業の「地域探求プログラム」、社会の要請に応える体験活動の「開  
墾クエスト」や「正月文化を楽しもう」、地域ぐるみ事業の「秋を満喫プチ登山」  
等、多くの事業を予定通り実施することができました。

また、各種教育事業においてはほとんどの事業で定員を大幅に上回るご応  
募をいただくなど、子供たちが体験活動の機会を求めていることをあらためて  
確認しました。よりよい体験活動の提供に今後とも努めることが必要であると  
考えております。

令和4年度に実施しました事業等の報告をまとめたものが、所報「ばんだい」  
No. 57号であります。皆様におかれましては、ぜひご一読いただき、ご意見や  
ご批正をいただければ幸いです。

今後とも「笑顔、あいさつ、思いやり」をモットーに、所員一丸となって邁進  
してまいりますので、関係者の皆様には引き続きご理解ご支援を賜りますよ  
うお願いいたします。

結びに、今年度ご利用いただきました皆様、ご支援をいただきました研修指導  
員・体験活動指導員の皆様や法人ボランティアの皆様など、関係者のすべての  
方々に衷心より御礼申し上げ、あいさつといたします。

令和5年2月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家 所長 佐川 正人



## ～所報57号目次 CONTENTS～

### ◇所長あいさつ

### ◇施設紹介

I	令和4年度国立磐梯青少年交流の家 経営・運営ビジョン	1
II	令和4年度のあらまし	2
III	令和4年度教育事業等	
1	令和4年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業実施一覧	6
2	次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業	
(1)	モデル的事業（特色あるプログラム・実践研究事業）「アクティブジオキャンプ」	7
(2)	課題を抱える青少年の支援事業（生活自立支援キャンプ） 「わくわくキャンプ」「学び・チャレンジキャンプ」	15
(3)	課題を抱える青少年の支援事業「交流キャンプ」	16
(4)	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿 「地域探究プログラム」（学校・団体参加型）	17
(5)	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿 「高校生ふるさと探究プロジェクト」（個別参加型）	19
(6)	地域ぐるみ事業「イングリッシュキャンプ」	20
(7)	地域ぐるみ事業「リオン・ドールキッズプロジェクト」	21
(8)	地域ぐるみ事業「秋を満喫プチ登山」	22
(9)	社会の要請に応える体験活動等事業「開墾クエスト」	23
(10)	社会の要請に応える体験活動等事業「日本文化を楽しもう！」	26
(11)	会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業「第6回いなわしろフェスティバル」	27
3	青少年教育指導者等の養成事業	
(1)	ボランティア養成・研修事業「ボランティアセミナー」	29
(2)	ボランティア養成・研修事業「ボランティアセミナー in 水戸生涯学習センター」	30
4	東日本大震災復興支援プロジェクト「第8期 福島子ども未来塾 第1～6回」	31
5	会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業	
(1)	第6回いなわしろフェスティバル	37
(2)	子どもの生活リズム向上山形県フォーラム	37
(3)	地域のイベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動	37
(5)	地域の学童クラブ等への出前講座	38
(6)	「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン	39
(7)	子どもゆめ基金説明会	39
(8)	その他	40
IV	令和4年度研修支援等	41
V	施設概要	
1	職員組織	42
2	国立磐梯青少年交流の家のあゆみ	43
◇	ご協賛・ご協力いただいた皆さま	46



# I 令和4年度 国立磐梯青少年交流の家 運営ビジョン



## 教育理念（ミッション）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要なとされる体験活動（自然体験・社会体験・生活体験等）の適切な場と機会の提供や基本的な生活習慣確立への支援に努め、健康な身体、感性豊かな心や様々な課題に挑戦する意欲と能力を持った21世紀をたくましく生き抜く青少年を育成する。



## 運営ビジョン



コロナ禍でも目標に向かい職務に精励する職員集団の育成  
○6C（コンプライアンス・コミュニケーション・コーポレーション・コンフィデンス・クリエイティブ・コンセクエンス）を遵守した勤務 ○事故絶無 ○3め（けじめ・確かめ・早め）

働き甲斐のある持続可能な施設  
○利用される方々や地域の方々等との信頼関係構築 ○豊かなコミュニケーションと創意工夫 ○磐梯に和をもって集う集団所員同士の「連携・連帯・連動（3R）」を絶えず意識する

心と環境の「あったか磐梯」  
○丁寧な研修支援や対応 ○利用しやすい環境保持  
○「笑顔・あいさつ・思いやり」の徹底

令和4年度各目標値の達成  
○閑散期利用者拡大に向けた効果的・戦略的な広報  
○「体験の風をおこそう運動」と「早寝早起き朝ごはん国民運動」の計画的な実施

総利用者数70,000人【宿泊45,000人日帰り利用25,000人】  
宿泊室稼働率60%以上 利用満足度90%以上達成

アフターコロナを見据えた広報の充実と集客・収入・稼働率「増」！  
○できるだけ早期に利用者総数15万人達成

新型コロナウイルス等感染症防止の徹底  
地域の防災拠点としての機能の充実

短期～長期の段階に応じた目標等の達成  
○第4期中期目標・計画や機構のミッションの具現化と達成  
○交流の家の喫緊の課題解決

国立磐梯が持つコンテンツの特徴（強み）

ハード面の強み→環境の良さ

- 磐梯朝日国立公園の豊かな自然
- 清掃・整備の行き届いた施設環境
- 関東甲信東北からの好アクセス立地



ソフト面の強み→恵まれた人的資源・質の高い活動プログラム

- 職員・スタッフのチーム力（結束力・ホスピタリティ）
- 豊富な指導人材とプログラム（自然・クラフト・防災・スポーツ等）
- 長年蓄積された多様な団体や組織と幅広く構築されたネットワーク



## 運営ビジョン達成のためのアプローチ

職務精励



所員や関係スタッフ一人一人が心身ともに健康で、望ましい人間関係のもと、やりがいや生きがいをもって職務に精励する。

指導力向上



所員一人一人のライフステージに合った研修を充実させるとともに、研修指導員・体験活動推進員・法人ボランティアの研修を充実させ、指導力向上を図る。

安心安全



事故絶無を徹底し、利用者に寄り添い、安全・安心を担保した指導・支援に努める。有事を想定して、自治体と連携した防災体制の構築する。危険度の高い活動プログラムをはじめとする職員・指導員の安全研修等を充実させる。

感染症対策



国や機構の示すガイドラインに準拠し、所の実態を踏まえながら新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、業務にあたる。

満足度向上



すべての利用者が満足して笑顔で帰っていただけるように、利用者の声に真摯に耳を傾け、心を込めて対応するとともに、各教育プログラム及び各種サービスの評価・改善に努める。

学校応援



新学習指導要領の趣旨を踏まえた教科指導への代替え等に結びつく新たなプログラムの開発・提案に努め、利用する学校等にカリキュラム・マネジメントへの支援を積極的に行う。

施設の特徴化



国土強靱化政策を受け、地域防災拠点施設としての役割を担う機能の拡充及び防災・減災事業の改善・開発、ジオパーク等の利活用、地域と連携した全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」、地域課題対応事業やSDGs関連事業のさらなる充実、東日本大震災後10年の復興に係る児童・生徒等の元気発信に努めるなど、所や地域の特色を生かした教育事業を積極的に展開する。

地域ぐるみの充実



「体験の風をおこそう運動」「早寝・早起き朝ごはん運動」をより一層計画的に福島県全域並びに山形県等において推進するとともに、令和5年度に向けて福島県実行委員会を立ち上げる。

連携強化



国立施設はもとより、県内外の公立施設等をはじめ地元猪苗代町、県教委、市町村教委、学校、保育園等、官公庁、一般企業や各種団体等とのさらなる連携を図る。磐越道沿線の大学との連携を強化し、学生ボランティアの拡充につなげる。

増収・広報拡充



自己収入の増、広報のさらなる充実と拡大とともに、ホームページの改善等による広報手段により、稼働率の悪い施設の利活用を図る。

利用者に快適な活動を提供し続けるため、美しい環境を維持する。

## II 令和4年度のあらまし

### 1 教育事業（詳細はP. 6～36参照）

青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の各年齢期に必要とされる体験活動（自然体験、社会体験、生活体験等）の適切な場と機会提供の場とするために教育事業を実施してきた。

「次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」として、モデル的事業（特色あるプログラム事業・実践研究事業）の長期自然体験『アクティブ・ジオキャンプ 2022』（1泊1日）をはじめ、「課題を抱える青少年の支援事業」として『生活自立支援キャンプ』『交流キャンプ in Bandai』、「地域ぐるみ事業」として『イングリッシュキャンプ』『リオン・ドールキッズプロジェクト』『秋を満喫プチ登山』、「社会の要請に応える体験活動等事業」として『開墾クエスト』（3回）、『日本文化を楽しもう！』、「青少年教育に関するモデル的事業」として、学校・団体参加型『地域探究プログラム』個人参加型『高校生ふるさと探究プロジェクト』、「会津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業」の『第6回いなわしろフェスティバル』、「ボランティア養成・研修事業」として、『ボランティアセミナー』、「東日本大震災復興支援プロジェクト」として、『第8期福島子ども未来塾』①～⑥を実施した。

今年度も新型コロナウイルス感染症や天候不順等の影響はあったものの、延期や日程変更、感染対策を工夫しながら、多くの青少年に体験の機会を提供することができた。



アクティブ・ジオキャンプ 2022

### 2 研修支援（詳細はP. 41参照）

令和4年度は昨年に引き続き、コロナ流行前の利用者数にもどすことを目的に受入を行った。宿泊利用者数では昨年度比2.3倍増、日帰り利用者は1.2倍増となった。

これは、昨年度に比べ、コロナを理由としたキャンセルが半数に減少したことが要因として挙げられ、教育旅行等の活動が活発化の傾向が見られるなど、利用者回復に向けた明るい兆しがみえた。しかしながら、宿泊利用者数ではコロナ流行前の50%程度の数であり、長期的な目標達成には依然として厳しい状況である。

そこで今年度も利用者獲得に向けて、春と秋の2回開催された福島県内7つの域内校長会、福島県教育委員会、新潟県教育委員会、茨城県教育委員会、千葉県教育委員会、小学校、中学校への直接訪問型広報などを実施した。今後も継続して効果的な広報を実施したり、より効果的な利用者受入の運営をしたりしながら利用者獲得につなげていきたい。

### 3 地域との連携

#### (1) 運営協議会の開催

令和4年度国立磐梯青少年交流の家運営協議会名簿（敬称略）

No.	氏名	所属職名
1	市川 隆（委員長）	国立大学法人東北大学 名誉教授
2	洪川 卓也	福島県教育庁社会教育課 課長
3	鬼多見 賢	猪苗代湖の自然を守る会 代表
4	安斎 康史	福島民報社 編集局長
5	横山 貴英	福島県小学校長会 会長
6	櫻井 康博	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 特任教授
7	小池 正博	福島民友新聞社 若松支社長
8	中野 充	学校法人新潟青陵大学 福祉心理学部臨床心理学科 准教授
9	平塚 康晴	福島県PTA連合会 会長
10	増子 恵二	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長
11	谷 雅泰	国立大学法人福島大学 副学長・教育推進機構長
12	佐藤俊市郎	福島県公立学校退職校長会 会長
13	佐瀬 誠一	株式会社リオン・ドールコーポレーション 常務執行役員・人材教育部管掌
14	渡部 英一	有限会社みなとや 代表取締役社長
15	渡部幸四郎	株式会社シグマ 経営企画本部参与

令和4年度は昨年度と同様に、12月に「運営協議会」を実施した。前半は令和4年度の経営運営ビジョンをもとに「研修支援」「教育事業」「人事・総務」「財務・施設」について報告し、委員の方々から忌憚のないご意見をいただいた。

後半は3つの視点で議題を分け、3グループに分かれてそれぞれ協議を行った。

#### < 3グループの視点 >

- ・ 1グループ：広報関係
- ・ 2グループ：事業関係
- ・ 3グループ：施設運営関係



運営協議会（R4.12.6）

グループ協議では、各議題について委員一人一人のそれぞれの立場から事例を伺うことにより、当交流の家での取り組みに新たな改善の視点を与えていただき、有意義な時間を過ごすことができた。

昨年度から始まった第4期中期目標・中期計画を踏まえた取り組みに対して、いただいた貴重なご意見を反映させ、次年度の運営に生かしていく。

(2) 会津・山形「体験の風おこそう」運動実行委員会

令和3年度より主催をすべて「国立磐梯青少年交流の家」とし、子供たちの「直接体験」の機会の減少における「生きる力」の低下を危惧する課題に対し、地域の各種団体が連携して特色を生かした体験活動の提供及び普及啓発を行いながら、未来を担う地域の子供たちに豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの基盤を養い、家庭や地域社会に体験活動の重要性を普及してきた。昨年度同様コロナ禍ではあったが、可能な限り「体験の風をおこそう」普及啓発活動を次のとおり実施してきた。

- ①「第6回いなわしろフェスティバル」の開催（詳細P.27参照）
- ②「子どもの生活リズム向上山形県フォーラム」（山形県教育委員会）の開催
- ③「猪苗代湖の水質向上」のため（猪苗代湖の自然を守る会）の連携
- ④「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン（詳細P.39参照）
- ⑤「体験の風をおこそう in 猪苗代」ほかイベントの出席



猪苗代湖の自然を守る会との連携  
地元の小学生の総合学習支援

(R4.6.28)

令和4年度会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会名簿（敬称略）

No.	氏名	所属職名
1	宇南山 忠明（実行委員長）	猪苗代町教育委員会 教育長
2	高梨 哲夫	磐梯町教育委員会 教育長
3	石本 浩一	北塩原村教育委員会 教育長
4	遠藤 和夫	磐梯山ジオパーク協議会 会長
5	増子 恵二	ボーイスカウト福島連盟 副連盟長
6	青木 徳平	株式会社まちづくり猪苗代 代表
7	鬼多見 賢	猪苗代湖の自然を守る会 代表
8	笹島 明美	猪苗代町小中学校長会 会長
9	渡邊 周二	福島県郡山自然の家 所長
10	武田 光弘	福島県会津自然の家 所長
11	大和田 洋	福島県いわき海浜自然の家 所長
12	宮澤 重嗣	一般社団法人猪苗代青年会議所 理事長
13	島貫 克彦	山形県教育庁生涯教育・学習振興課 課長
14	吉水 順一	山形県飯豊少年自然の家 所長
15	佐藤 博之	山形県PTA連合会 会長
16	佐川 正人（実行副委員長）	国立磐梯青少年交流の家 所長

(3) 教育事業における実行委員会

- ①「第6回いなわしろフェスティバル」実行委員会
- ②「アクティブ・ジオキャンプ」実行委員会（2回）

各実行委員会とも、企画の段階から、運営に至るまで連携、実施をすることにより、地域の方々の指導や協力を得ることができた。アクティブ・ジオキャンプは事後検討会も実施し、事業の効果について話し合った。

(4) 各高等学校・大学等との連携（ボランティア活動の充実）

各種教育事業を実施するために、各高等学校（会津学鳳高等学校・喜多方高等学校・会津第二高等学校・猪苗代高等学校・あさか開成高等学校・ふたば未来学園高等学校・岩瀬農業高等学校・尚志学園尚志高等学校・小名浜海星高等学校・埼玉県立杉戸高等学校・茨城県立水戸農業高等学校・千葉県立市川東高等学校・千葉県立市川工業高等学校・千葉県八千代松陰高等学校）及び各大学（福島大学・新潟清陵大学・上越教育大学・東北文化学園大学・日本体育大学・帝京大学・会津大学短期学部）の学生に参画をしていただいた。ボランティアの中には社会人も1名いた。

(5) 青少年施設連携

① 東北青少年施設協議会

今年度は国立花山青少年自然の家（宮城県栗原市）が事務局であったが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は見送られ、要項の作成・配付に代えることとなった。

② 東北連携会議

国立青少年教育施設東北地区4施設（岩手山・花山・磐梯・那須甲子）の連携を強化し、各施設における業務の活性化を趣旨としている。今年度は岩手山青少年交流の家が事務局となり取り組んだ。各施設のフェスティバルの協力や合同の職員研修を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催もあった。

③ 福島県自然の家会議

福島県いわき海浜自然の家を中心に、会津自然の家、郡山自然の家、国立磐梯青少年交流の家、国立那須甲子青少年自然の家と連携会議を行ってきた。会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会の連携が主な活動であった。

## 4 法人ボランティア表彰

当交流の家を中心にボランティア活動を積極的に行った3名が、令和4年度法人ボランティア表彰を受け、それぞれの大学において表彰状授与式を執り行った。



新潟青陵大学 4年 加藤 みなみ（中）  
表彰式 R5. 2. 13 4年 太田 望夢（左）



福島大学 4年 遠藤 大樹（中）  
表彰式 R5. 3. 24

# III 令和4年度 教育事業等

## 1 令和4年度 国立磐梯青少年交流の家 教育事業等実施一覧

No.	事業名	事業目的	事業内容	期間	対象	募集定員(予定)
<b>(1) 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業</b>						
1	【モデル的事業(特色あるプログラム事業)】 【モデル的実践(実践研究事業)】 アクティブ・ジオキャンプ	自己効力感を高めるため家庭と連携し、「食育」と「運動習慣づくり」のアプローチによって、基本的な生活習慣を見直すきっかけづくりを図る。 冒険的な活動を通して、仲間と協働して困難を乗り越えるための技術や態度を培い、達成感や成就感を味わうとともに、長期キャンプの魅力を伝える。 大学の研究者等と協働で効果測定を実施し、研修支援プログラムを検証し、自然体験活動プログラムの高度化を目指す。	・食育教育(野外炊飯・炭焼/ランスについて) ・食育体験(農業体験) ・サイクリング ・磐梯山ジオパークを活用したフィールドワーク(爆発火口遊・銅沼散策等) ・登山(磐梯山、安達太良山、猫崎岳、吾妻山等) ・水辺の活動(カヌー、シャワークライミング等) ・猪苗代一周チャレンジジョーク ・防災や減災に係る教育	7/24(日)～8/6(土)	小学5年生～ 中学3年生	20名
2	【課題を抱える青少年の支援事業】 生活自立支援キャンプ	課題を抱える子供を対象に、体験活動を通じて、子供たちが基本的な生活習慣を身に付ける機会を提供する。また、その課題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組み、課題解決につながる新たな価値観を生み出す機会も提供する。	・体験活動の楽しさを感じるレクリエーションや野外遊びプログラム ・自立した生活を目指すプログラム ・協働することのよさを実感するプログラム ・基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるプログラム	8/7(土)～7/4(日) 8/7(土)～7/10(日) 8/11/27(土)～11/28(日) 8/15(土)～1/16(日)	連携施設 (いわき育英会、 ピースふくしま)	30名
3	【課題を抱える青少年の支援事業】 交流キャンプ in Bandai	体験活動を通してコミュニケーション能力を育ませ、また将来に向けて良好な人間関係を築き、お互いを認め合いながら中学校生活を送ることができるよう支援する。	○1ギヤブ解消支援 ・人間関係作り ・自然体験活動 ・協働することのよさを実感するプログラム ・基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなるプログラム	10/30(日)～11/5(土)	猪苗代町・磐梯町 小学4年生～ 小学6年生	50名
4	【青少年教育に関するモデル的実践(地域探究プログラム)】 地域探究プログラム (学校・団体参加型)	オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力等について学ぶ。多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生を育成する。	○オリエンテーション合宿 ・遊覧所運営について ・自然災害防災について ・磐梯山登山 ・基本的な生活習慣を身に付けるきっかけづくりとなるプログラム	8/4/14(木) 8/5/6(金) 8/5/13(金) 8/5/20(金) 8/6/2(木)～6/3(金) 8/6/10(金) 8/6/17(金)	猪苗代高校生	80名程度
5	【青少年教育に関するモデル的実践(地域探究プログラム)】 高校生ふるさと探究プロジェクト (個別参加型)		○オリエンテーション合宿(地域での実践) ・自然体験・自然・環境に係る活動 ・社会体験・ボランティア活動 ・職業体験・生活や文化の体験 ・地域の伝統文化等 ・プレゼンテーション	7/16(土)～7/18(月)	高校生	20名 ※先着
6	【地域ぐるみ事業】 イングリッシュキャンプ	外国人講師と連携し、様々な国の言語や文化を体験させ、異文化理解や外国への興味・関心につながる活動を行う。	・様々な国の方々との交流(野外炊飯・ナイトハイク・レクリエーション・雪遊び等) ・外国語のコミュニケーション場面の設定 ・多様な文化や慣習についての理解深化(SDGsの観点より)	11/19(土)～11/20(日)	小学3年生～ 小学6年生	30名
7	【社会の要請に応える体験活動等事業】 開墾クエスト	親子を対象に、地域課題のひとつである「休耕田」の開拓に地域団体と連携して実施する。開墾体験のほか、開墾による水の流れがもたらす生態系の変化や特徴を学ぶとともに、単独減産農産物の生き物探検体験等を通して、地域の自然環境改善について考える。	・休耕田の開墾体験 ・水路開拓体験 ・収穫体験 ・食農体験 ・環境学習	8/5/22(日) 8/8/7(日) 8/10/2(日)	小学生を含む親子	30名程度
8	【社会の要請に応える体験活動等事業】 日本文化を楽しもう!	書初めや普遊びに挑戦したり、書道パフォーマンスを鑑賞したりすることで、日本の伝統文化に親しめるようにする。また、正月文化を題材に異年齢や異世代の交流活動を行う。	・大判用紙を使用して書道体験 ・普遊び(カルタ・凧あげ等) ・正月料理体験 ・書道パフォーマンス鑑賞	1/21(土)～22(日)	青少年(保護者も可)	50名
9	【地域ぐるみ事業】【連携事業】 リオン・ドールキッズプロジェクト	(株)リオン・ドールコーポレーション(以下リオン・ドール)と共催で事業を企画・実施することにより、当所及びリオン・ドール職員の長所を活かした体験活動プログラムと地域の特色等の見解を深め、地域の教育力向上につなげるとともに、より効果的な体験活動を地域の子供たちに提供できる機会とする。	・新劇体験 ・野外炊飯 ・望遠鏡作り ・天体の話	8/20(土)	小学生を含む親子	10家族30名
10	☆追加事業 【地域ぐるみ事業】 秋を満喫プチ登山	昨今、物価・原油価格の高騰や感染症拡大などにより、各家庭では子どもに野外での体験活動を行う機会が減少している。そこで、手軽な費用で参加できる家族向け事業を企画し、子どもをもつ家族に自然体験の場を提供する。	・親子で国立磐梯青少年交流の家の周辺を散歩する(往復3時間程度) ・家族対抗ゲームを実施 ※雨天時はキャンセルまたはクラフト体験の実施	11/3(木)	小学生を含む親子	10家族30名
11	【金津・山形「体験の風をおこそう」運動推進事業】 第6回いなわしろフェスティバル	関係機関や団体と連携し、体験活動や地域の魅力を広く発信する。	・関係機関や団体と連携し、創作活動や自然体験活動などの事業を展開する。	6/5(日)	家族など	日帰り参加 (1000名程度)
<b>(2) 青少年教育指導者等の養成事業</b>						
12	【ボランティア養成・研修事業】 ボランティアセミナー	「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠したプログラムを実施することにより、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを行うことのできるボランティアを育成する。	・講義(青少年教育施設の現状と運営、ボランティア活動の意義) ・実習(普通救命救急講習、野外活動)	5/7(土)～5/8(日)	16歳以上	40名 ※先着
<b>(3) 東日本大震災復興支援プロジェクト</b>						
13	【東日本大震災復興支援】 【防災・減災教育事業】 「第8期福島こども未来塾 ～えがお輝くふくしまの未来～」	○東日本大震災に福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。 ○様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。 ○仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何が出来るかを考え、広く発信する。 ○未来塾生(高校生・大学生)OBOGをボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。	①開塾式 ②ダンスワークショップ～Heart Global ③スポーツワークショップ～USF ④防災教育～復興視察 ⑤防災教育・OBOG会 ⑥閉塾式	8/6/25(土)～6/26(日) 8/7/16(土)～7/18(日) 8/9/23(金)～9/25(日) 8/10/8(土)～10/10(月) 8/12/10(土)～12/11(日) 8/2/4(土)～2/5(日)	小学校5年生～ 中学校2年生	通年参加 60名

## 2 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1) モデル的事业 (特色あるプログラム・実践研究事业)

令和4年度教育事業

「アクティブ・ジオキャンプ2022」



【期日】令和4年7月24日(日)～8月6日(土)  
13泊14日

【場所】国立磐梯青少年交流の家

### ○共催・後援・協賛

共 催：磐梯山ジオパーク協議会

後 援：福島県教育委員会、猪苗代町教育委員会、北塩原村教育委員会、磐梯町教育委員会、日本ジオパークネットワーク

協 賛：株式会社エイティズ、株式会社ツルハホールディングス、株式会社リオン・ドールコーポレーション  
株式会社Roots (順不同)

### ○事業趣旨

子供たちの健やかな成長に必要な強い心と体を育てるために、「食育」と「運動習慣づくり」から健康的な生活習慣のきっかけづくりを行う。磐梯朝日国立公園を中心とした立地条件を生かした冒険的な活動を通じて、仲間と協働して困難を乗り越えるために技術や精神を培い、達成感を味わいながら、長期キャンプの魅力を経験する。

### ○活動日程

	期日	内容	特色
ジオ チャレンジ	7月24日(日) 7月25日(月)	・磐梯山ジオパークについての 講話、実験 ・裏磐梯火口探検	磐梯山ジオパークについての学習、体験活動。
ばんだい チャレンジ	7月26日(火)～ 8月2日(火)	・登山体験 ・シャワークライミング体験 ・サイクリング ・カヌー体験 ・食育講座 ・収穫体験と収穫した作物を使った調理活動	磐梯山・雄国沼登山。 小野川不動滝でシャワークライミング体験。 桧原湖でカヌーや湖水浴。 大学の先生の食育講座。 磐梯山周辺で育てた農作物の収穫体験と調理活動。
猪苗代湖 チャレンジ	8月3日(水)～ 8月6日(土)	・猪苗代湖一周 ・まとめ、発表会	2日間で猪苗代湖一周。 活動全体を通した振り返り。

### ○参加者・概要

参加者：小学生(男子9名、女子5名)

中学生(男子3名、女子2名)計19名

概 要：ジオチャレンジ【アイスブレイク・目標設定】

出会いの会の後はスタッフによるアイスブレイクを行った。参加者ははじめ緊張した面持ちや堅苦しい雰囲気であったが、ボランティアの声かけやミニゲームで気持ちの緊張を解していった。その後のテントや食事用チェア設置、釜炊きご飯の夕食作りなどを通して、参加者は次第に表情が明るくなり、たくさんの笑顔が見られるようになった。また、参加者は大塚製菓の熱中症対策についての学習や、登山用のトレッキングシューズのサイズ合わせなども行った。その後、参加者はアクティブ・ジオキャンプ2022(以降：AGC)期間中の個人目標や活動班の目標設定を行い、「仲間と協力し合う。」「最後まであきらめずに頑張る。」など、長期キャンプに対する高い意欲が感じられた。

【磐梯山噴火・ジオパークについての講話、磐梯山ジオラマ作り】

磐梯山噴火記念館長佐藤公氏より、炭酸飲料を使用した噴火の様子再現や、水槽を使っての噴煙の広がり方に関する模擬実験、磐梯山ジオパーク協議会の協力による磐梯山のジオラマ作りなどを行った。火山に関する話だけでなく、昨年起きた海底火山による軽石の拡散や、昨今の台風や大雨による自然災害についても解説いただいた。振り返りでは「岩なだれの発生を知ることができた。」や、「磐梯山の歴史を知ることができた。」などの感想が参加者からあがった。翌日以降の活動に向けての関心や意欲を高めることができた。





### 〇ジオチャレンジ【噴火口探検と五色沼散策】

磐梯山ジオパークガイドの方から解説をいただきながら、噴火でできた磐梯山噴火口や銅沼、五色沼周辺を散策した。ガイドの方の話から噴火により「岩屑なだれ」が起こり、「流れ山」や桧原湖・小野川湖などの堰き止め湖ができたことを知ると、自然の力の大きさを実感する様子が見られた。前日の講話で聞いた、噴火がもたらす威力や目の前に広がる風景、光の加減や流入する鉱水の働きで発色する湖沼群など、美しさという自然の持つ力を改めて感じていた。疲れた様子が見られた参加者もいたが、振り返りでは、「昨日学習した磐梯山の歴史を思い出した。」「噴火による迫力ある磐梯山を見られた。」「綺麗な色の五色沼を見て驚いた。」との感想をもつことができた。



### 〇ばんだいチャレンジ【サイクリング】

福島県サイクリング協会の方々を講師にお招きし、サイクリング教室を行った。参加者は翌日から始まる農家までのサイクリングに必要な知識を得ることができ、安全に活動できるよう真剣に説明を聞いていた。また、起床から朝の集いまでの「おはようサイクリング」の時間には、サイクリング協会の方に監修して頂いたAGCライセンストライに向けて練習する参加者の姿も見られた。AGCライセンストライとは猪苗代湖一周のサイクリングに必要な自転車の乗車技能が備わっているか確認するもので、2回ある休息日に実施した。参加者は提示されたジグザグ走法やブレーキテスト等をパスして、猪苗代湖一周に向けて準備を整えた。



ばんだいチャレンジサイクリング編のスマールステップ1として、猪苗代町内の農家まで片道10kmのサイクリングをした。参加者は公道での自転車乗車はしたことがあるものの、5km以上の乗車に関しては初めてと答えるものが少なくはなかった。また、「おはようサイクリング」では平坦な場所での練習であったが、勾配のある交流の家の駐車場での練習の際には、ブレーキのタイミングや前走の自転車との距離感覚がつかめず接触することもあった。しかし、参加者はサイクリングのたびに自分が乗る自転車の車体感覚をつかみ、交差点や信号での確認などを丁寧に行うなどして、平坦な道10kmを1時間以上かけてサイクリングした。

スマールステップ2として、磐梯町内の農家までの全行程30km・標高差400mの道のりをサイクリングした。往路のサイクリングの途中は下り坂が連続して、先導する職員がブレーキを掛けながらスピードを落とし、15kmを1時間程度でサイクリングできた。復路は殆どが上り坂であり、途中休憩と昼食を挟んで合計5km程度の坂道を自転車を押して歩いた。スタッフから参加者に、「坂道を切り切ったら休憩するよ。」「行動食をとるから、飲み物を配るので10分間の休憩。」「切り切ったら協賛してくれたお店の昼食と冷たい飲み物が待っているよ。」などと言葉を掛けて励まし続けた。前日夜の参加者ミーティングの際に、磐梯町の農家まで往復は猪苗代湖一周サイクリングの試金石という意識付けを行ったこともあり、3時間以上をかけて走破することができた。「もう上り坂の坂道は行きたくない。」「上り坂の坂道が長すぎる。」といった否定的な意見も多かったが、「頑張れた。」「猪苗代湖一周大丈夫ですか？」等と走破できたことを肯定的に捉え、自信につながる発言をしている参加者も少なくなかった。

スマールステップ2として、磐梯町内の農家までの全行程30km・標高差400mの道のりをサイクリングした。往路のサイクリングの途中は下り坂が連続して、先導する職員がブレーキを掛けながらスピードを落とし、15kmを1時間程度でサイクリングできた。復路は殆どが上り坂であり、途中休憩と昼食を挟んで合計5km程度の坂道を自転車を押して歩いた。スタッフから参加者に、「坂道を切り切ったら休憩するよ。」「行動食をとるから、飲み物を配るので10分間の休憩。」「切り切ったら協賛してくれたお店の昼食と冷たい飲み物が待っているよ。」などと言葉を掛けて励まし続けた。前日夜の参加者ミーティングの際に、磐梯町の農家まで往復は猪苗代湖一周サイクリングの試金石という意識付けを行ったこともあり、3時間以上をかけて走破することができた。「もう上り坂の坂道は行きたくない。」「上り坂の坂道が長すぎる。」といった否定的な意見も多かったが、「頑張れた。」「猪苗代湖一周大丈夫ですか？」等と走破できたことを肯定的に捉え、自信につながる発言をしている参加者も少なくなかった。

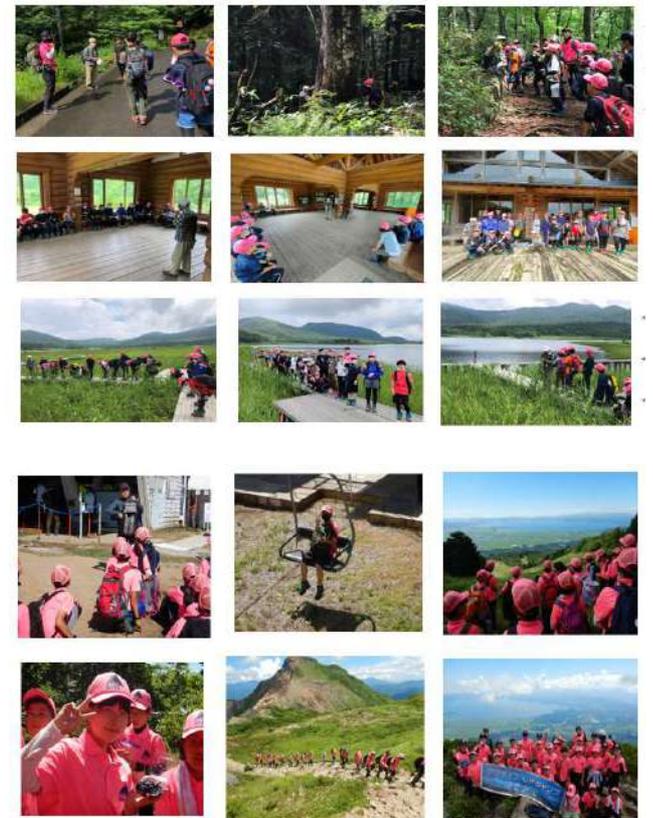


### 〇ばんだいチャレンジ【登山】

ばんだいチャレンジ登山編のスマールステップ1として、7月25日に行った噴火口探検と五色沼散策は、初めての登山である参加者も少なくなかった。登山の前に行ったセーフティトークで水分の取り方等について伝達したが、折からの気温の上昇により水分摂取が進んでしまい、配布した2本のペットボトルを昼食時には飲み切ってしまう参加者も見られた。その際には職員が持参した水分を分け与えることで対応した。登山に対しては、勾配のある裏磐梯スキー場を登ったり、銅沼や噴火口までの日陰のぬかるんだ道を歩いたりしたが、指導員の話聞きながら隊列を崩さずに登山することができた。また、磐梯山が白煙をあげている所を写真を使って説明を聞いたり、桧原湖の湖畔には現在も温泉が自噴しているところを見たりして、磐梯山が今だに活動している火山であることを知ることができた。五色沼散策では、色の変化に富んだ五色沼湖沼群の様子に興味をもって散策する様子も見られた。

スマールステップ2では、研修指導員のガイドの説明を聞きながら雄国沼を目指して登山した。雄国沼は標高1000mを超える高所に位置しており、磐梯山とは違った火山地形を観察することができるスポットである。今回利用した雄子沢コースはブナ林を進む登山道となっており、「ブナ太郎」と呼ばれている巨大なブナの胸高直径を計測したり、地面に落ちている葉や実など観察しながら歩いたりした。また、森のビンゴカードを配付し、いろいろな植物を探しながら登山することができた。ガイドの方から雄国沼の形成の仕組みや猫魔岳やトランボウという生き物の伝説などのレクチャーを受け、参加者は真剣に聞き入っていた。参加者からは「初めてブナの実を見た！」や「雄国沼は昔から人々に利用されていることを学ぶことが出来た。」などといった感想があげられていた。

スマールステップ3として、磐梯山登山を行った。登山開始場所である猪苗代スキー場のリフト乗り場では、研修指導員の方から、リフト乗車の際の乗車姿勢や登山での歩く際の装備や、注意点などを中心にセーフティトークをしていただいた。登山を通じて参加者に登山活動への意欲を高めたり、安全管理の意識づけをしたりすることができた。登山当日は日差しが強く暑い中での活動であったが、参加者自身が作った冷凍ブルーベリーやきゅうりの浅漬を食べながら、班の仲間同士で声を掛け合い登山することができた。参加者からは疲れた様子も見られたが、眼下に広がる猪苗代湖や那須連山を見ながら無事に登頂することができた。磐梯山の頂上からは猪苗代湖が一望でき、参加者は感動と達成感に満ちた表情をしていた。下山の際は八方台ルートを通して裏磐梯側へ下山し、そのまま桧原湖沿いにある松原キャンプ場へ宿泊した。振り返りでは、「磐梯山は、表と裏で見える景色の違いが見てわかった。」「自分が(磐梯山の)頂上まで登ったとは思えない。びっくり。」など、自然体験を通じて様々な発見をした参加者が多く見られた。





## 〇ばんだいチャレンジ【シャワークライミング・カヌー・湖水浴】

シャワークライミングは長期キャンプの最初の水辺の活動ということで、参加者に水の事故やけがなどの危険を伴うことをしっかりと認識させ、準備運動を行った。また、ライフジャケットやヘルメット、アクアシューズなどの正しい装着の方法を指導し、2名でバディを組んで注意喚起と人数確認をしながら活動を開始した。活動の際には、指導者は常に無線で連絡を取り合い、ボランティアと指導者で参加者を挟むようにして活動させた。参加者は仲間に水の流れが速いことを言葉や身振りで伝えたり、手を差し伸べて助け合ったりするなどお互いに安全に気をつけてシャワークライミングに参加する姿が見られた。沢を登り切ったところで滝が現れると「険しい道を歩き切ることができてよかった。」「登り切って嬉しい。」と感想を述べていた。また、「班の仲間と協力して沢を登り切れてよかった。」「流れが速いところがあったけど仲間から声を掛けてもらって頑張れた。」など、達成感を味わった様子を多数の参加者の振り返りからも伺えた。

カヌーと湖水浴は松原キャンプ場を拠点に桧原湖で行い、午前中はカヌーと湖水浴を参加者全員で体験した。カヌーでは、参加者はカヌーのオリンピック出場経験のある松原キャンプ場のオーナーから、セーフティトークと併せて、パドルの動かし方やカヌーに座る位置、ライフジャケットやヘルメットのかぶり方などのレクチャーを頂いた。参加者は2人1組のバディを組み、波に煽られながらも頑張って漕ぐ姿が見られた。最初はカヌーの操作に苦戦している参加者が多く見られたが、次第に前後の2人で息を合わせ、協力して漕ぐことがポイントだと気づき、声を掛け合いながら上手にカヌーを進められるようになった。

湖水浴では、指導者からターザンロープや滑り台を使う際の注意点や確認事項が参加者に伝えた。参加者は湖面を監視している指導者と確認しながらロープを使って湖に飛び込んでいた。それぞれの活動の終了際に、参加者各自でカヌーと湖水浴の選択することを伝達した。午後はカヌーチャレンジコースと湖水浴コースに別れて活動した。カヌーチャレンジでは、桧原湖を横断して温泉が自噴している場所までカヌーを漕いだ。参加者はカヌーから身を乗り出し、手や足を温泉につけて束の間のリラックスする時間を過ごした。湖水浴コースでは、参加者同士で輪になって浮かび、身体が湖に同化している感触を味わった。振り返りの中でも「バディと声を合わせて前に進めた。」「カヌーを上手にスピードを出すことができた。」などと達成感を味わうとともに、「バディのことを考えて漕ぐスピードを調整した。」「(バディの)座る位置を交換すれば良かった。」などと、相手のことを考えて行動する姿勢が見られた。





〇ばんだいチャレンジ【食育体験】

食育体験では、収穫体験する農家の場所まで自転車で使って移動した。会津伝統野菜の収穫体験では、サイクリングの途中の小学校で農家から話を聞いた後で農場に向かった。農家の方からはこの小学校で育てている小菊かぼちゃを例にしたお話があり、参加者は、種の採取方法や育て方等を他の一般に流通している野菜と比較しながら学習することができた。その後、農園に移動して余蒔きゅうりや会津丸茄子等を収穫した。交流の家に戻ってから、郡山女子大学の亀田先生より、ふくしまっ子健康・体力「自分ノート」を使って、成長期に必要な栄養や昼食に食べた栄養素について話を聞いた。また亀田先生からは参加者が自宅で食べていた食事を見直して食べ物の身体に及ぼす影響について話を伺った。その後、参加者たちは午前中に農園で収穫してきたきゅうりを使った浅漬を作ったり、野外炊飯棟に場所を移して夏野菜のパエリアを調理したりした。参加者自身が収穫してきた夏野菜を使ったパエリアは、とても美味しく大満足であった。また、浅漬は翌日の登山の際に水分の補給とカリウムの摂取に役立てた。この浅漬作りは磐梯山登山の際にも生かされ、参加者自身が収穫して凍らせた冷凍ブルーベリーと共に、前日の振り返りの時間にボランティアと一緒に調理して、登頂する際の行動食として持参することとなった。

事前の参加者の調査においても野菜嫌い傾向、生き物に触ることに対して抵抗を示す参加者の存在は少なくなかった。参加者は交流の家から15km離れた磐梯町でトマトなどを栽培している農家を訪れ、「プチぷよトマト」という野菜臭さを感じさせないトマトを収穫した。「プチぷよトマト」とは、一般的なミニトマトよりも皮が薄く、磐梯山で濾過されたミネラルをたくさん含んだ水が詰り「ぷよっ」とした食感が特徴的な品種で、参加者からは「皮がつやつやしていてきれい!」や、「思ったよりもすごく甘くてびっくりした。」といった感想が聞こえた。その後、参加者は自転車に乗り、猪苗代町にある緑の村の魚つかみどり池広場に向かった。磐梯山の湧き水の冷たさを感じ、魚の泳ぐ速さや動きなどを実感した後、生きている命を頂くことの大切さを学んだ。参加者は「生き物」から「食べ物」に変わる・変える瞬間を感じると共に、自ら捕まえたニジマスを食べることで、生き物への感謝や作ってくれた方への感謝、食に対するありがたさを学び、「いただきます。」という言葉の意味を考えるきっかけとなったことを学んだ。また、参加者は猪苗代町内にあるブルーベリー農家でも、ブルーベリー収穫体験と共に野菜を使ってピザの制作と食事を行った。農家からは猪苗代町で農業を始めるに至った経緯や、地元のおいしいものを食べて楽しんでほしいとのお話があった。野菜への思いを伺った参加者は、用意された生地を伸ばし、農園で育った野菜をトッピングしてピザを作った。自分で作ったピザは市販のピザよりも美味しく、口に入れた途端に笑顔になった。さらに、磐梯町教育委員会のご厚意により、磐梯町の地元素材を使ったジェラートの提供を受けた。これは、健康的な運動習慣と食育の取組についての本事業を、磐梯町が進める地域のコミュニティによる学びの機会と捉えていただいた結果といえる。結果的に、当施設のある磐梯山周辺地域の農産物を使った食事による健康的な食生活の実現と、生産者の地産地消の推進を図ることができた。





### 〇猪苗代湖一周チャレンジ【ライド&ウォーク】

今年度は猪苗代湖一周のうち約43kmを自転車、約24kmを歩くことで、仲間と協働して困難を乗り越え、達成感を味わうための活動として実施した。環境省の「長距離自然歩道の歩き方」においても、大人が歩く距離の目安は平坦地で1日20kmとのことから、上記の設定は妥当と考えた。前日のミーティングでは、各グループ・個人で猪苗代湖一周に向けて目標を立てた。各グループともに、「協力」「あきらめない」等の目標を設定した。また、事前に猪苗代湖一周に対して立てていた個人内目標をグループ内で発表した。「困難をポジティブに考える。」「猪苗代湖を一周して、凄い自分になる。」と自分の言葉で伝えることができた。そこで更に個人の目標に対して、グループのメンバーから励ましの言葉をカードに記入して本人に渡した。そこには参加者が10日間のプログラムで見た頑張り、困難に向かう姿勢など、身近で見ていた仲間なりのメッセージが記載してあった。それを見た本人の様子からグループの仲間に対する信頼感、困難を乗り越えようとする気持ちの醸成につながったように見えた。

第12日目は生憎の雨天でのスタートとなったが、参加者にとっては猪苗代湖一周ライセンストライの合格、高低差400m30km走破などでの自信を胸に、頑張る気持ちがみなぎっていた。前記したとおり、福島県サイクリング協会による自転車教室、同協会監修の猪苗代湖一周のためのサイクリングトライ、猪苗代湖一周のための先導と自転車のトラブルサポートカーの配車などの協力を頂いた。途中雨が止んだり雨足が強まったりなど天候が不安定であったが、同協会のサポートにより安心して進むことができた。協賛企業のリオン・ドールコーポレーション様によるお弁当の提供や、ツルハホールディングス様による行動食の提供のサポートもあり予定どおりに進んでいった。郡山少年湖畔の村へ到着した際には、天候も回復し、湖畔に出て夕陽を見ながら猪苗代湖の大きさを実感することができた。テント設営や釜炊きご飯に関しても10日間の作業の成果を発揮して、職員のサポートがなくともスムーズに活動できていた。参加者は自分たちで炊いたご飯にソースかつをのせて、特製ソースかつ丼と会津産の夕顔を使ったスープを食べ、翌日のウォーキングに備えて休むことにした。しかし、大雨と落雷のため、テント泊から室内泊へと変更した。参加者は不安な思いを口にすることもあったが、職員は参加者の思いをしっかり受け止め、自然の脅威に対してどう対処すべきか自然に試されていること、不測の事態になった場合の対応の仕方についての説明をした。そして、ニュース番組を参加者と一緒に視聴し、参加者が置かれている状況を把握させ、2022年のAGCでは困難を乗り越えることができたと後日感じることができるようになろうと伝え、身体を休める事を優先するよう伝えた。

第13日目は猪苗代町と郡山市に落雷等の警報が発令されていたため活動を延期し、バスで交流の家に帰り、濡れてしまった物資の整理をした。振り返りで参加者は、猪苗代湖一周に対して諦めない気持ちを持ち続けること、明日に向けての決意を目標にすることなど、参加者それぞれが気持ちを鼓舞している様子うかがわれた。



## 事業報告

令和4年度教育事業

「アクティブ・ジオキャンプ2022」



【期日】令和4年7月24日(日)～8月6日(土)  
13泊14日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家  
郡山少年湖畔の村、Roots

### 〇猪苗代湖一周チャレンジ【ライド&ウォーク】

第14日目は天候も回復し、猪苗代湖一周の残り24kmウォークが再開された。「猪苗代湖一周のリベンジ」と声を上げると、参加者は拳を上げて答えた。湖畔を歩いて湖畔から見える磐梯山や交流の家の位置関係を把握したり、歩道がない場所やトンネル内の歩行についてセーフティークなどを交えて伝達した。参加者は前日までの疲れや足の痛さなどを訴え、友達と声を掛け合いながら、一生懸命前に進む姿が見られた。昨日とは違った青空のもと、猪苗代湖をバックに写真に写る参加者の気持ちは晴れやかであった。

昼食では、地域の野菜を使ったカレーライスを食べ、エネルギーチャージを行い、目の前に広がる磐梯山とゴール地点の交流の家を見ながらゴールを目指した。最後の上り坂で参加者は最後の力を振り絞って、笑顔で仲間たちとゴールすることができた。グループのメンバーで肩を掛け合ったり、手をつないだりして猪苗代湖を一周できた喜びを表現しながらゴールした。参加者たちはゴールできたことを全員で喜び合い、その様子からは充実感と達成感が溢れていた。振り返りや14日間の思いを寄せ書きに記入する際には、「猪苗代湖一周は達成感があった。」や、「みんなでゴールして感動した。」などの声や記述があった。

### 〇発表会・スライド上映・AGC修了証書授与

最終日、参加者は14日間使用したテントや調理器具を片付けた。その後AGCで学んだことや達成できたこと、今後に活かしていきたいことなどについて発表を行った。「達成することで得られた充実感があった。」や「この経験を活かしていきたい。」など、参加者の多くが今後の生活に活かしていこうという意欲を発表していた。次にAGCの活動を写真と動画で振り返る上映会を行った。この会には保護者の方にも出席していただき、14日間という長期キャンプで困難な活動を乗り越えたことや楽しかったことなど、参加者の表情を見ながら成長していく様子を感じてとっていただいた。別れの会では所長から一人一人に修了証書を授与した。参加者の表情からは14日間の活動をやり切ったという達成感や充実感が感じられた。また、参加者からは、様々な思い出を振り返っている様子と長期キャンプが終わってしまう寂しさや友達との別れを惜しむ様子が見られたが、今後に向けての決意を表すたのもしい様子も見られた。



## 事業報告

令和4年度教育事業

「アクティブ・ジオキャンプ2022」



【期日】令和4年7月24日(日)～8月6日(土)  
13泊14日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

○事業アンケートより 「アクティブ・ジオキャンプ2022」について(参加者 計19人)

①全体的にこのキャンプはどうでしたか。

とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
17	2	0	0

②いろいろなプログラムの活動はどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
17	2	0	0

③交流の家の人はどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
17	2	0	0

④ボランティアのお兄さん・お姉さんはどうでしたか。

とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
17	2	0	0

⑤このキャンプに来てよかったですか。

とてもよかったです	よかったです	あまりよかったです	よくなかった
15	4	0	0

⑥またこんなキャンプがあれば参加したいですか。

ぜひ参加したい	参加したい	あまり参加したくない	参加したくない
15	4	0	0

- ・楽しかった、人間関係を深められた。
- ・いろいろなプログラムがあって楽しかった。
- ・ご飯を作るのが楽しかった。
- ・友達がたくさんできて、とても楽しかった。



### ○成果(◎)と課題(●)

- ◎ 参加者の満足度は高く、本事業に対する評価は高いと言える。
- ◎ 事前の参加者説明会をYouTubeで公開することで、何度も視聴でき、参加者や保護者が持っていくものを準備する際に確認することができた。
- ◎ 参加者は活動量計バンドを着用することで、時間を守って行動することができ、歩数やカロリー計算を見ながら活動している姿が見られた。
- ◎ 今年度はプログラムの中にサイクリングを取り入れたため、事前の調査では自転車乗車に不安を覚えていた。しかし、朝のサイクリング活動の時間も設けたり、走行距離もスモールステップで徐々に伸ばしていったりして参加者のサイクリングに対する自信と技能高めることができた。
- ◎ 食育体験プログラムにおいては、会津の伝統野菜を使って浅漬を作って登山の際の行動食にしたり、野菜の癖の少ない品種で苦手な食べ物を克服したりする姿が見られた。活動の様子や参加者の感想、保護者に参加者のその後の様子を確認すると、キャンプ終了後に食べる量が増えたり、スーパーで野菜を手にとったりする姿が見られたとのことだった。また、釜戸炊きご飯を炊くことを継続して行うことで、家庭でも鍋でお米を炊いたり、釜を買ってご飯を炊きたいと保護者に申し出たり、ご飯を炊くことに自信をもつことができた。
- 今年度は福島県限定の募集で先着順としたため、午前0時に募集開始すると20分で募集人数に達してしまった。翌朝に募集に関する問い合わせが殺到する事態が発生したため、募集に関する再考の余地があると思われる。
- ジョチャレンジが過密日程となってしまった。次年度では分散する日程も考慮して、長期キャンプを考える必要があると思われる。

## (2) 課題を抱える青少年の支援事業

### 令和4年度教育事業

#### 「生活自立支援キャンプ」



全4回にて開催（日程は下記参照）

【参加者】各回による

【場 所】国立磐梯青少年交流の家  
及び 周辺市町村

#### ○事業趣旨

ひとり親家庭等、事情のある児童・生徒を対象に自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取り組みを行い、子供たちの自己肯定感の向上や生活習慣の改善等につながる多様な体験を提供し、自立する力を身につけることを目指す。

#### ○活動日程 ※日時・キャンプ名・場所・主な内容の順に記載

- ① 7月2日（土）～3日（日）第1回 わくわくキャンプ（国立磐梯青少年交流の家・会津若松市）

野外炊飯・ナイトハイク・星空観察・白虎隊の歩いた道ハイキング・鶴ヶ城見学

- ② 7月9日（土）第1回 学びチャレンジキャンプ（国立磐梯青少年交流の家・会津若松市）

白虎隊の歩いた道ハイキング・白虎隊の墓見学・鶴ヶ城見学

- ③ 11月26日（土）第2回 学びチャレンジキャンプ（国立磐梯青少年交流の家 敷地内）

創作活動「流紋焼き（手びねり）」・自然遊びゲーム

- ④ 1月15日（日）第2回 わくわくキャンプ（国立磐梯青少年交流の家 敷地内）

中ノ沢こけし絵付け体験・自然遊びゲーム



#### ○参加者・概要

参加者：第1回わくわくキャンプ（小学生 男子8名・女子8名 計16名）

第1回学びチャレンジキャンプ（小学生 男子10名・女子6名 計16名）

第2回学びチャレンジキャンプ（小学生 男子2名・女子4名 計6名）

第2回わくわくキャンプ（小学生 男子3名・女子5名 計8名）

概 要：【白虎隊の歩いた道ハイキング】

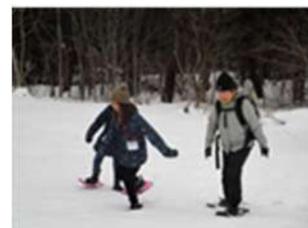
会津レクリエーション公園から、実際に白虎隊が歩いた道のハイキングを通して、自然に親しみながら活動することができた。飯盛山の山道を歩くのは参加者にとっては大変だったが、最後まで歩き切った後は自信に満ちた表情で見られた。

##### 【中ノ沢こけし作り】

猪苗代町の伝統工芸品である「中ノ沢こけし」を作る体験を通して、こけしが当時の子供たちの人形遊びの代わりだったことや、こけしができるまでの製作の工夫や努力について知ることができた。

##### 【スノーシュー体験】

雪が降らない地域の子供たちへ雪に親しむ活動として設定した。当施設の委託研修指導員を活用することで、楽しく安全に活動を進めることができた。かまくら作りも楽しむことができた。



#### ○成果と課題

##### <成果>

- ・ 中ノ沢こけし体験については地元の伝統工芸であるので、参加者へ体験していただくことで地元の文化を広めることにつながった。また、新たなプログラム開発への足掛かりとすることができた。
- ・ スノーシュー体験や流紋焼き（手びねり）等、初めての体験プログラムを充実させたことで、昨年度から引き続き同団体参加の事業ではあったが、多くの体験の場を提供できた。

##### <課題>

- ・ 会津若松市の史跡観光は、子供たちにとっては難しい内容もあった。子供たちが興味をもって楽しみながら参加できるようなプログラムを施設の職員と打合せをして検討すべきであった。

(3) 課題を抱える青少年の支援事業

令和4年度教育事業

「交流キャンプ in Bandai」



【期 日】令和5年1月28日(土)

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

○主催

国立磐梯青少年交流の家

○事業趣旨

様々な体験活動を通してコミュニケーション能力を高めることにより、新しく出会う人と良好な関係を築くことができるようにする。また、中学校進学前に交流を図り、お互いを認め合う活動を経験することで、「中1ギャップ」を防ぎ、中学校生活をスムーズにスタートすることができるようにする。



○活動日程

9		10		11		12		13		14		15	
1月28日 (土)	受付	開 会 式	本の紹介・ 読み聞かせ	休 憩	アイス スプレ イク	休 憩	モ ル ク	休 憩	昼 食	移 動 ・ 休 憩	ス ノ ー ラ フ ト ・ ス ノ ー チ ュー ブ ・ そ り 遊 び	移 動	閉 会 式

○参加者・内容・概要

参加者：小学5年生（男子2名、女子3名） 小学6年生（男子0名、女子4名） 計9名

内 容：本の紹介・読み聞かせ、モルック、スノーラフト等

概 要：「本の紹介・読み聞かせ」では絵本専門士の先生を招き、様々な絵本を紹介していただいたり、絵本の読み聞かせをしていただいたりした。参加者はユーモアのある絵本や挿絵が美しい絵本を手にし、たくさんの絵本を知ることができた。読み聞かせでは参加者が一部を音読する場面もあり、絵本の楽しさを体で感じる事ができた。

ニュースポーツの「モルック」の体験では2対2や3対3で対戦を行い、同じ学校や地域でチームを作ったり、違う学校同士でチームを組んだりして、多くの参加者と交流することができた。「ナイス。」「おいしい。」とお互いに声をかけ合いながら、モルックを楽しんでいた。

「スノーラフト」では、スノーモービルが牽引する雪上ボートに乗った。スノーラフトのスピード感やコーナリングの勢いに参加者から歓声が上がった。「スノーチューブ」「そり遊び」では、指示を守って活動することや、止まり方などのセーフティークを活動開始前に行った。ドーナツ型の丸いスノーチューブや三角形のスノーチューブ、普通のそりの3種類を使って、参加者は何度も斜面を滑ることができた。スノーチューブは初めて乗る参加者が多く、施設の備品を役立てることができた。

○成果と課題

<成果>

- ・ 実施後のアンケートで交流キャンプ全体を「とてもよい」と答えた参加者は、全9名中7名（約77%）、「よい」と答えたのは2名と肯定的な回答が多かった。メインの活動となった「本の紹介・読み聞かせ」「モルック」「スノーラフト・スノーチューブ・そり遊び」についても、同様の結果を得ることができた。
- ・ 参加者数が9名と少なかったため、参加者同士がすぐに名前を覚えて交流することができた。所属する小学校は異なるが、進学する中学校が一緒になる参加者は交流キャンプを通してとても仲良くなり、このことを「とても嬉しかった。」と感想に記していた。

<課題>

- ・ 参加者の募集を2回行ったが、なかなか参加者が集まらなかった。本事業の在り方や広報の仕方を検討し、改善していく必要がある。
- ・ 「スノーチューブ」では初めは滑りが悪かったが、次第に良く滑るようになり、想像以上にスピードが出て危険な場面があった。職員の指摘により、スタート地点を下げてスピードが出すぎないように対応した。職員は斜面の状況を随時観察し、活動を安全に実施できるように気を付けなければならないと感じた。

(4) 全国高校生体験活動顕彰制度リエンテーション合宿  
 「地域探究プログラム」(学校・団体参加型)  
 「オリエンテーション合宿 in ばんだい」



【期 日】 令和4年5月6日(金)  
 ~令和5年2月18日(土)  
 【場 所】 国立磐梯青少年交流の家  
 福島県立猪苗代高等学校  
 磐梯山噴火記念館

○共催・後援・協賛・協力

協 力：自衛隊福島地方協力本部会津若松出張所・白河地域事務所  
 日本赤十字社福島県支部  
 磐梯山噴火記念館  
 福島県立博物館

(五十音順にて表記)

○事業趣旨

オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢や主体的に取り組む態度、課題に向き合う力等について学ぶ。また、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた地域での実践活動を通して郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

○主な活動日程

日 時	内 容	会 場
令和4年5月6日(金)	○ガイダンス ○防災減災についての講話① 「東日本大震災・避難所運営・クロスロードゲーム」	猪苗代高等学校
令和4年5月13日(金)	○講義・演習① 「噴火災害講話・噴火実験」	磐梯山噴火記念館
令和4年6月2日(木) (OR合宿)	○講義・演習② 「ロープワーク・HUG訓練・発表①」	国立磐梯青少年交流の家
令和4年6月3日(金) (OR合宿)	○講義・演習③ 「DIG訓練・野外炊飯・登山の講話」 ○振り返り・発表②	国立磐梯青少年交流の家
令和4年6月17日(金)	○防災振り返り・発表③	猪苗代高等学校
令和4年11月18日(金)～ 令和5年2月10日(金)	○課題解決・行動計画の基礎	猪苗代町内
令和5年2月18日(土)	○発表④・ガイダンス	猪苗代町内



## ○参加者・内容・概要

参加者：福島県立猪苗代高等学校

1年生（男子11名、女子8名）

2年生（男子9名、女子8名）※OR合宿（6月2日、3日）のみ参加

3年生（男子16名、女子5名）※OR合宿（6月2日、3日）のみ参加

合計 57名 男子36名、女子21名

内 容：震災講話・クロスロードゲーム・噴火災害講話・噴火実験

ロープワーク・非常用テント設営・救助訓練・HUG訓練・DIG訓練

野外炊飯・登山講話・ラベルワーク・発表活動

概 要： 福島県立猪苗代高等学校の全校生徒を対象に防災・減災に関わる合宿を行った。1年生は5月から東日本大震災や避難所運営、磐梯山噴火における災害の特徴や対策を学んできた。答えは1つではなく、意思決定が困難な場面も課題として設定し、様々な意見を出し合い、解決策を模索する学習にも取り組んだ。

OR合宿には猪苗代高校の全校生徒が参加した。1日目はロープワーク・HUG訓練を中心に活動した。自衛隊の方から数種類のロープワークを教わり、それぞれの結び方の特性を知った。学んだロープワークを課題の解決（救助訓練、非常用のテント設営など）に生かすべく、グループで方法を模索して実践した。HUG訓練では避難所を運営する立場となって、避難者への場所の割り振りや指示を出すなどの疑似体験をした。2日目はDIG訓練と登山の講話を中心に活動した。登山時の心構えや装備、今後の活動等について考えた。DIG訓練では猪苗代町のハザードマップを用いて学習した。災害時には猪苗代町の多くの場所で避難することが必要なこと、安全な場所が少ないことを実感し、どのように避難するかを考えた。

## ○成果と課題

### <成果>

- ・様々な講師の方から講話や演習の指導をいただいたことで、避難所運営や災害時の行動について考えを深めることができた。
- ・上級生が下級生を助け、手本となる場面が多くあった。
- ・学校では経験しない活動だったが、積極的に話し合う姿や学び合う姿勢が見られた。

### <課題>

- ・HUG訓練やDIG訓練では活動時間が長くなり、一部集中力を欠いてしまう生徒が見られた。
- ・班員の人数が多い場面では役割が減り、活動に消極的になる様子が見られた。
- ・生徒や学校の実態を踏まえてグループ分けや計画を考える必要がある。



(5) 全国高校生体験活動顕彰制度リエンテーション合宿

令和4年度教育事業

「高校生ふるさと探究プロジェクト」

(個別参加型)



令和4年7月16日(土)～7月18日(月)

【参加者】高校生21名

【場所】国立磐梯青少年交流の家  
天鏡閣・ホテルみなとや・天神浜  
ゲストハウス「ハンボック」

### ○共催・後援・協賛

後援：福島県教育委員会、猪苗代町教育委員会

### ○事業趣旨

- (1) 参加者が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験(活動)をすることにより、課題発見・問題解決能力を高めることができるようにする。
- (2) 参加者が自身の実践活動の成果や成長を振り返ったり、参加者同士で意見を出し合ったりすることにより、地域の新たな課題や魅力に気づき、未来のふるさとを活性化させる資質を養うことができるようにする。

### ○活動日程

	日時	科目等	内容(例)	実施会場 (宿泊施設)
準 入	7月16日(土) 10:30～20:30	① ガイダンス ② 講話等 ③ フィールドワーク1 ④ 講義・演習1 ⑤ 講義・演習2	○スタッフによる概要説明 ○猪苗代湖の環境を守る取り組みの体験(ヒシ狩り) ○「地域を良くする」観点の整理 ○フィールドワーク(7/17)の計画策定	国立磐梯青少年交流の家 猪苗代湖
実 践	7月17日(日) 9:00～20:30	⑥ フィールドワーク2 ⑦ 講義・演習3 ⑧ 発表1	○3観点で班別フィールドワーク 田町おこし(白鳥丸)、天鏡閣(観光)、ヒシの実(再利用)等 ○「地域を良くする」ための有効な活動の検討 ○ポスターセッションによる発表会	国立磐梯青少年交流の家 周辺市町村
取 組	7月18日(月) 9:00～14:30	⑨ 講義・演習4 ⑩ 発表2 ⑪ 実践活動ガイダンス	○自身の地域での実践活動計画を作成 ○振り返り・個人のまとめ発表 ○実践活動実施上の留意点についてガイダンス ○探究のまとめの作成方法・提出方法についての説明	国立磐梯青少年交流の家



### ○参加者・概要

参加者：高校生(男子14名、女子7名) 計21名

内 容：「ガイダンス・フィールドワーク」

「班別フィールドワーク・ポスターセッション」「活動計画作成・振り返り・ガイダンス」

概 要：【ガイダンス・フィールドワーク】

スタッフによる概要説明を行い、猪苗代湖の環境を守る取り組みの体験として猪苗代湖岸のヒシ狩りやゴミ拾いを行った。その後、「地域を良くする」観点の整理をし、2日目に行うフィールドワークの計画を策定した。

【班別フィールドワーク・ポスターセッション】

3観点で班別フィールドワークを行った。午前はヒシの実(再利用)等について講師の方に講話をいただき、午後は白鳥丸(町おこし)・天鏡閣(観光)の視点で、各施設長から講話をいただいた。その後、「地域を良くする」ための有効な活動の検討を行い、ポスターセッションによる発表会を行った。

【活動計画作成・振り返り・ガイダンス】

自身の地域での実践活動計画を作成した。振り返りと個人のまとめをお互いに発表し合った。最後に、実践活動実施上の留意点についてガイダンスを行うとともに、探究のまとめの作成方法・提出方法についての説明を行い、今後行う実践活動や実践報告書作成につながるように工夫して実施した。

### ○成果と課題

#### <成果>

- ・ 自分の地域に生かすための「個人の行動計画」を作成し、発表した。自分の地元の課題に今回学んだことを生かして解決を図っていったが、どれもたくさんのアイデアに満ちあふれる素晴らしいものだった。

#### <課題>

- ・ オリエンテーション合宿で学んだ内容が実践活動につながるような内容にすべきであった。もっと具体例をあげながら、終了後のガイダンスを企画すべきであった。

## (6) 地域ぐるみ事業

令和4年度 教育事業及び「SDGsを踏まえた  
外国語を使った国際交流プログラム開発事業」  
「イングリッシュキャンプ」



令和4年11月19日(土)～11月20日(日)  
1泊2日

【場 所】 国立磐梯青少年交流の家

### ○主催

国立磐梯青少年交流の家

### ○事業趣旨

英語を用いたオリエンテーリングや調理活動、ニュースポーツといった体験活動を行うことにより、自然に異文化に触れながら英語に親しみをもち、英語を進んで用いようとする意欲を高める。



### ○活動日程

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
11月19日 (土)	受付	開 会 式	アイ ス ブ レ イ ク	イングリッシュ オリエンテーリング	休 憩	ベ ッ ド メ イ ク	夕 食	移 動 ・ 準 備 ・ 消 毒	外 国 の お や つ 作 り	片 付 け ・ 移 動	入 浴	振 り 返 り	就 寝

	6	7	8	9	10	11	12				
11月20日 (日)		起 床 ・ 身 支 度	朝 の つ ど い	朝 食	移 動 ・ 片 付 け	部 屋 点 検	ニ ュ ー ス ポ ー ツ ( モ ル ク )	休 憩 ・ ア ン ケ ー ト 記 入	閉 会 式		

### ○参加者・内容・概要

参加者：小学3年生（男子3名、女子4名） 小学4年生（男子4名、女子4名）

小学5年生（男子4名、女子3名） 小学6年生（男子3名、女子4名） 計29名

内 容：イングリッシュオリエンテーリング、外国のおやつ作り、ニュースポーツ（モルック）等

概 要：「イングリッシュオリエンテーリング」では、班ごとに20問の問題を探しながら解いた。難しい問題では、班の上級生やボランティア、職員がヒントを出すことでスムーズに活動を進めることができ、協力し合う姿が見られた。

「外国のおやつ作り」では、カナダの「ライスクリスピースクエア」とアメリカ合衆国の「バナナチョコフラッペ」を作った。「stir」「delicious」といった英語を参加者が理解して話すことができた。

「モルック」では、参加者が得点した際に職員やボランティアが「How many(points do you get)?」と尋ねると、参加者は倒したモルックのピンであるスキットルの数を英語で数えて「Seven!」等と答えることができた。また、応援する際に「Nice try!」「Good job!」といった英語を用いることができた。

### ○成果と課題

#### <成果>

- ・実施後のアンケートでイングリッシュキャンプ全体を「とてもよい」と答えた参加者は、90%以上だった。また、メインの活動となった「オリエンテーリング」「おやつ作り」「モルック」についても、同様の結果を得ることができた。
- ・休憩時に外国語指導助手が英語クイズなどを行い、スタッフ全員で英語に慣れ親しんだり、英語を自然に用いたりする環境を作ることができた。その結果、参加者が自然に英語を使うことができた。

#### <課題>

- ・実施後のアンケートでアイスブレイクを「とてもよい」と答えたのは70%程度にとどまり、「アイスブレイクの時間が短かった」との感想があった。他の事業でもアイスブレイクによって硬い表情が和むこともあり、十分な時間をアイスブレイクに充てていく必要があった。
- ・おやつ作りでフライパンを使用した際、参加者が熱くなったフライパンに触れそうになった。



○共催

株式会社リオン・ドールコーポレーション社会貢献室

○事業趣旨

(株)リオン・ドールコーポレーション(以下リオン・ドール)と共催で事業を企画・実施することにより、当所及びリオン・ドール職員の長所を活かした体験活動プログラムと地域の特色等の知見を深め、地域の教育力向上につなげるとともに、より効果的な体験活動を地域の子供たちに提供する機会とする。

○活動日程

	16	17	18	19	20
8月20日(土)	受付	開会式	野外炊飯 (薪割体験・焼きそばづくり)	望遠鏡作り	天体の話
					閉会式



○参加者・内容・概要

参加者：未就学(男子2名、女子2名)小学生(男子3名、女子5名)計27名  
高校生(男子0名、女子1名)大人(男性6名、女性8名)

内 容：薪割体験・野外炊飯・望遠鏡作り・天体の話

概 要：野外炊飯と天体観測のプログラムを展開する予定であったが、荒天のため天体観測を中止して天体の話に変更した。炊飯活動では薪割り、火おこし、調理の工程について、安全に配慮しながら子供が体験できるように運営した。後半は望遠鏡作りと職員による天体の話をを行い、子供たちに天体に関する興味を持たせ、家庭で天体観察ができるようにするためのきっかけ作りとした。



○成果と課題

<成果>

参加者からは「日頃野菜を食べない子供が自分で作った料理なのでちゃんと野菜を食べていた。」「薪を使った調理が初めてなので楽しめた。」「天体にまつわる話を聞いて、次回家族で自然での活動をするための参考となった。」「子供が進んで楽しみながら手伝いができた。」という感想があり、食生活への効果や非日常のプログラムでの感動、家庭での体験活動の推進、子供の自立心の向上などがうかがえた。

<課題>

荒天時での開催となり、天体観測のプログラムを変更しての事業運営となったが、ほぼ当初予定していた通りのスケジュールであったため、晴天時は時間が足りなくなる可能性が高かった。次回はスケジュールの計画・管理を入念に調整する必要がある。





○共催・後援・協賛・協力



協 賛：株式会社リオン・ドールコーポレーション  
(昼食および飲み物のご提供)

協 力：株式会社 DMCaizu (猪苗代スキー場)  
(活動場所のご提供)

○事業趣旨

昨今、物価・原油価格の高騰や感染症拡大などにより、各家庭では子どもに野外での体験活動を行う機会が減少している。そこで、手軽な費用で参加できる家族向け事業を企画し、子どもをもつ家族に自然体験の場を提供する。

○活動日程

10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
10:00 集合	プチ登山（登り） 交流の家→猪苗代スキー場	昼食&レク	プチ登山（下山） 猪苗代スキー場→交流の家		15:00 解散

○参加者・内容・概要

参加者：園児（男子1名）  
小学生（男子6名、女子7名）  
保護者（男性6名、女性6名） 計26名

内 容：プチ登山

概 要：興味があったとしても実際に実行するためには安全管理などの理由からハードルが高いと考えられる登山をメインの活動とし、園児から大人までの初心者を対象とした日帰り事業を実施した。また、事業実施日を紅葉シーズンに設定することで、季節の移り変わりを体感できるようにした。



○成果と課題

<成果>

- ・本事業で従来利用されることが少なかった「交流の家コース」を使用したことで、新規の研修支援プログラムとして提供できることが実証された。
- ・紅葉シーズンに事業を実施したことで、参加者から「紅葉を見ながら運動不足を解消できました」や「景色が素晴らしい、紅葉もきれい」といった季節を感じたという感想を得ることができた。
- ・事前にコースや服装、持ち物などを詳細にまとめた資料を送付したことで、個人装備に問題がある参加者はいなかった。

<課題>

- ・登山道にハウノキの葉などが数多く落葉しており、急斜面では滑りやすかった。
- ・紅葉の度合いは年によって遅速があり事業実施日の設定が難しい。
- ・当初の予定では、行動中に木の実などの観察を計画していたが、クリやドングリはすでに落ちてしまっていたため、ネイチャーゲームなどの一部プログラムを変更しなければならなかった。



○協力

協 力：田圃クエスト

○事業趣旨

未就学児や児童を含む家族を対象に、かつて豊かな棚田が栄えた猪苗代の土地を開墾し、水路を復活させる活動を通して、自然の中で体を動かす楽しさを味わうとともに、磐梯山の豊かな自然がもたらす恩恵や生態系の変化、特徴を学び環境教育の深い学びへつなげる。また、天鏡閣の見学や地域の自然や人々とのふれあいを通して、豊かな感情や好奇心、思考力を培う。

第1回(令和4年5月22日)

○活動日程

	9	10	11	12	13	14	15	
5月22日(日)		受付	はじまりの会	開墾クエスト 【休耕田を開墾】	昼食	休憩	手植えて田植え	終わりの会

○参加者・内容・概要

参加者：未就学児(男子3名、女子1名)  
小学生(男子10名、女子8名)  
大人(男子8名、女子9名)計39名

内 容：田圃クエストの始まりの話・休耕田の開墾・田植え

概 要： 田圃クエストのメンバーから、休耕田になることで多様な生態系が失われてしまうことや、休耕田再生活動の経緯について、参加者にフリップを使って説明があった。メンバーから休耕田に住んでいる水生昆虫やどじょう、野鳥や草花などの生き物について写真を使って説明していただいた。参加者はフリップを見て「この虫がいるの?」「きれいな鳥!」と、休耕田のある土地が豊かな自然が残る場所であることを理解した。

その後、参加者は草を集め、草がなくなった土地を鍬やスコップを使って耕し始めた。草が繁茂していた土地は根がびっしり張っていて、スコップで根を切りながら耕し始めた。参加者は草が一度生えると土を耕すことが困難になることを実際に体験して感じていた。

午後から家族ごとに田植えを行った。参加者は抵抗なく裸足で水田に入ることができ、他の参加者と隊列を組みながら手植えて、苗を植えることができた。あらかじめ田植えをする前に水田の水底に格子状に線を引いておいたので、未就学児でも目印を見つけて田植えをすることができた。



○成果と課題

<成果>

- 参加家族は休耕した土地を再び田畑に戻す大変さを体験することと、生き物を身近に観察したり素足で水田に入ったりすることなど、自然を直接肌で感じるができる体験活動の有用性を認識していた。
- 家族ごとに活動範囲を示したり、苗を植える列を指定したりした感染対策を講じた活動に、各家族とも満足度は高いものであった。子どもの自然体験不足による親子参加型の教育事業を望む声があった。

<課題>

- 農具を使うプログラムであったため、安全面の確保が重要であった。子どもが複数参加した家族にはスタッフが農具の指導を行い、保護者が兄妹のサポートを行う等、スタッフの人員配置と確保、活動範囲で管理できるような参加者の人数制限を行うことが必要になる。10家族以上または今回を大きく上回る人数を対象とする募集は、安全性を考慮すると困難であると考えられる。

## 第2回（令和4年8月7日）

	10	11	12	13	14	15
8月7日 (日)	受付	はじ まり の 会	開墾クエスト 【石取り・あぜ固め 水路開墾】	昼食 休憩	がさがさクエスト 【水路の生き物観察】	終 わ り の 会

### ○参加者・内容・概要

参加者：未就学児（男子2名、女子2名）

小学生（男子8名、女子7名）

大人（男子6名、女子6名）計31名

内 容：開墾クエスト（田んぼの石取り・あぜ固め・水路開墾）・がさがさクエスト

概 要： 午前中は第1回で作業した田んぼエリアの石取り作業・あぜを固める作業、水路開墾を行った。参加者はスコップを使って、重くて大きい石を家族で協力して掘り起こし、田んぼの水があふれないように土手の部分となる通称「あぜ」を踏んだり、スコップで叩いたり路面を固める作業を実施し、汗を流した。また、田んぼに水を供給するための水路を掘り、パイプを通したその後で通水式を行った。田んぼに水が入ると参加者からは歓声があがった。

午後は水路に入り、水生生物を調査する活動の通称「がさがさクエスト」を行った。子どもたちは網を水中に入れ、夢中で網を覗いていた。取れた生き物はガラスケースに入れて全員で観察した。豊かな水や土壌に恵まれた水路からは、アブラハヤやオニヤンマのヤゴ、ホトケドジョウ、サワガニなど準絶滅危惧種になっている生物がとれて、子どもたちは珍しい生き物を見つけるたびに歓声をあげていた。



### ○成果と課題

#### <成果>

- 参加者たちは開墾活動を通して第1回から作業した田んぼの変容に達成感を覚えることができました。また、がさがさクエストを通して日頃見ることのできない生物を発見できた感動と、豊かな水や土壌がかけがえのない恩恵を生むことを学ぶことができました。前回の反省点を活かし、職員の他大学生ボランティアを2名入れたことにより、作業効率・安全性が向上した。

#### <課題>

- 真夏の猛暑日に実施したプログラムであったため、こまめな水分補給や休憩等をはさんで活動を行うことで熱中症などの体調不良者は出なかったが、休憩する場所に木陰が少なく、参加者の体力の消耗が激しかった。今後は炎天下の対策についても万全にしていきたい。



### 第3回（令和4年10月2日）

	10	11	12	13	14	15
10月2日 （日）	受付	はじ ま り の 会	開墾クエスト 【開墾地の森の探検】	昼食 休憩	手刈りで稲刈り	終 わ り の 会

#### ○参加者・内容・概要

参加者：未就学児（男子2名、女子2名）

小学生（男子7名、女子7名）

大人（男子6名、女子5名）計29名

内 容：田圃クエストによる森の探検（天鏡閣見学・周辺の森の散策）、稲刈り

概 要：参加者は午前中に天鏡閣見学と周辺の森の散策を行った。天鏡閣は開墾地の森の中心となる場所で、参加家族ごとに館内の見学を行った。天鏡閣のスタッフが制作したクイズで、館内の様々な場所にある展示物から答えを見つけていた。その後、田圃クエストの方に周辺の森の案内をしていただいた。日陰の地面でアリジゴクを探したり、ドングリを拾ったりした。森の中に住むムササビの巣のある木に案内された参加者は、指を指した方向を見て巣穴を探していた。また、開墾クエスト2回目に行った「がさがさクエスト」の場所に抜ける道を教えていただいて、草むらに棲むバッタやカマキリ等を捕まえることができ参加者は大喜びであった。

午後は春に田植えをした苗が黄金の稲穂となっている姿に参加者は歓声を上げていた。田圃クエストの方に安全な鎌の使い方を教えて頂き、稲を刈り取っていた。保護者と一緒に鎌を使って刈り取った稲を子どもたちは笑顔で運ぶ姿が見られ、充実した秋の日を過ごすことができた。

#### ○成果と課題

##### <成果>

- 参加者たちは開墾活動や田植え、水路づくり、そして稲刈りとお米ができるまでに多くの労力がかかっていることを実体験で体験することができる貴重な体験となったようである。猪苗代の季節ごとの自然に触れて生き物が好きな子どもたちの笑顔がたくさん見ることができた。また、法人ボランティア（保育学科志望）の参加により、天鏡閣クイズでの合格スタンプの捺印や稲刈りの補助など、参加した未就学児の目線に立った対応ができた。

##### <課題>

- コロナ対策を意識するあまり、昼食の対応へ柔軟性を欠いてしまった。各家族はそれぞれの車中で昼食を食べていたが、折角の晴天の素晴らしい自然の中で食べるように促すことができれば、参加者の方々の笑顔がもっと溢れたのではないかと感じた。



令和4年度教育事業

「日本文化を楽しもう！」



【参加者】16家族45名

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

○事業趣旨

茶道体験や昔遊びに挑戦したり、書道パフォーマンスを鑑賞したりすることで、日本の伝統文化に親しめるようにする。また、日本文化を題材に異年齢や異世代の交流活動を行う。

○活動日程

日程	テーマ	内容
1月21日(土) 9:00 受付	日本文化を体感しよう!	書道パフォーマンス、茶道体験、昔遊び 日本料理試食・絵本(日本昔話)読み聞かせ
1月22日(日) 11:50 解散	和楽器に親しもう!	和楽器演奏

○参加者・概要

参加者：16家族(小学生23名、保護者22名) 計45名

内 容：「書道パフォーマンス」「茶道体験」「昔遊び(コマ・けん玉・かるた・紙風船・ダルマ落とし)」「読み聞かせ(日本昔話)」「和楽器演奏」

概 要：【書道パフォーマンス】

会津学鳳高等学校書道部を講師として招き、書道パフォーマンスを鑑賞したり、書道部員と一緒に大筆で文字を書くパフォーマンス体験をしたりした。書道パフォーマンスでは音楽に合わせてダイナミックに文字を書く姿を間近で見、感動とともに書道の素晴らしさを体感できた。



【茶道体験】

裏千家・熊倉社中の皆様を講師として招き、茶道体験をした。家族でペアになって「お茶」をたてたり味わったりと、実際に茶道の一連の流れを体験することができた。



【読み聞かせ(日本昔話)】

絵本専門士の佐藤さんを講師として招き、いろいろな日本の昔話を聞く体験ができた。紙の絵本だけでなく、デジタル絵本の読み聞かせやお手玉を使った手遊び等も行われ、楽しく読み聞かせの時間を過ごすことができた。



【和楽器演奏】

山てらすの山本氏や廣光会の長尾氏を講師として招き、和太鼓や津軽三味線の演奏を聴いたり、体験したりすることができた。実際の演奏体験の際には、子供たちから「もっとやりたい。」「初めて触って感動した。」という声を多く聞くことができた。



○成果と課題

<成果>

- ・ 各分野の専門家を招いたことで、参加者がいろいろな日本文化に慣れ親しむことができた。鑑賞だけでなく、体験も取り入れたことで、参加者にとっても貴重で充実した時間となった。
- ・ 今回の事業で、多くの講師や団体と連携できたことにより、今後の教育事業における連携先はが増え、ネットワークを広げることができた。

<課題>

- ・ 冬の実施だったため、暖房をつけていたが寒いという声から参加者から聞かれた。快適に活動できるように次期など工夫していく必要がある。
- ・ 日本文化に関する体験を多く取り入れたが、各活動のつながりが薄かったので、ストーリー性を持たせる等して、事業全体を通して「日本文化のすばらしさ」を体感できるように工夫していきたい。

### 3 青少年教育指導者等の養成事業

(1) ボランティア養成・研修事業

令和4年度 教育事業

#### 「ボランティアセミナー」



【期 日】令和4年5月7日(土)～5月8日(日)  
1泊2日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

#### ○共催・後援・協賛・協力

主催：国立磐梯青少年交流の家

#### ○事業趣旨

○「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠したプログラムを実施することにより、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うことのできるボランティアを育成する。

#### ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
5/7 (土)						受付	開 会 式	アイス ブレイク	屋 食	荷物 移動	屋 食	青少年教育に ついて知ろう!	休 憩	青少年 教育施設って どんなところ?	休 憩	野外炊飯	休 憩	ナイトハイク	入浴	就寝
5/8 (日)	起床 清掃	つ ど い	朝 食	荷物 移動	安全管理Ⅱ	休 憩	法人ボラン ティアの 制度について	休 憩	磐 梯の ボラン ティア 活動	屋 食	休 憩	ボラン ティア活 動の 意義	閉 会 式	□…講義 □…演習 □…説明						

#### ○参加者・内容・概要

参加者：43名（男子13名、女子30名）

内 容：青少年教育（講義） 野外炊飯 応急手当、ナイトハイク

概 要：

法人ボランティアとして活動するために必要となる安全管理（野外炊飯の危機管理、応急手当）や野外炊飯などの技術について学んだ。また、青少年教育について明治大学の吉松先生、ナイトハイクについて菅原先生からご指導をいただいた。当施設で活躍している先輩ボランティアにも参加していただき、昨年度の教育事業で実際に活動をしている様子を見たり、体験談や法人ボランティアとしての想いを聞いたりした。参加者はボランティア活動のイメージを具体的にし、これからボランティアとして活動していく上での目標を立てることができた。

#### ○成果と課題

##### <成果>

- ・ 事後アンケートでは、法人ボランティアに必要な知識や技能を高めながら、ボランティアとしての意欲が高まったなどの記入が多く見られた。
- ・ 野外炊飯などを通して安全管理の仕方や野外炊飯の中での児童のつまづくポイントなどが理解できた。
- ・ 様々な活動の中で、グループワークの場面を多く設けた。参加者は自分の考えを伝えたり、みんなで考えたりすることができ、一方的な知識の詰め込みにならずに学びを深めることができた。

##### <課題>

- ・ 野外炊飯をあまり経験したことがない参加者が年々多くなってきていると感じる。安全管理などについてしっかり指導して、参加者に考えさせる必要がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、高等学校や大学の対応に差が出てきている。予備日を設定し、受講希望の参加者が年度中にボランティアセミナーを受講できるようにしていく措置を考えていく必要がある。





○共催

茨城県水戸生涯学習センター

○事業趣旨

「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠したプログラムを実施することにより、教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うことのできるボランティアを育成する。

○活動日程

8		9		10		11		12		13		14		15		16		17	
2022/7/3 (日)		受付	開 会 式	アイス ブレイク	青少年 教育	青少年 教育施設で どんなところ?	ボランティア 【テント設営】	昼食	ボラン ティア 活動の 意義	ボランティア活動の技術【読み聞かせ】						ボランティアの 制度について		閉 会 式	

○参加者・内容・概要

参加者：高校生（男子11名、女子11名）  
 大学生（男子0名、女子5名）  
 大人（男子2名、女子5名）計34名



内 容：ボランティア養成共通カリキュラムに準拠したプログラム

概 要： ボランティア養成共通カリキュラムに準じた磐梯青少年交流の家のプログラムを水戸生涯学習センターで行った。アイスブレイクでは、参加者は「バースデーチェーン」「言うこと一緒、やること一緒」などのメニューを実際に体験し、その後当施設の職員がアイスブレイクの意義やファシリテーターとしての心得などを解説した。講義では、青少年教育における発達段階に応じた課題と体験活動、参加者への関わり方等について説明するとともに、当施設のハード面や研修支援の様子を紹介動画で参加者に見ていただき、茨城県からの利用が多いことなどを解説した。参加者からは「磐梯山や猪苗代湖があり、素晴らしい環境だ。」「陸上部の練習も出来そう！」等との声が上がった。その後は天候が崩れたので室内の講義室で当施設で実際に利用している折り畳みテントを設営した。参加者は互いに声を掛け合ってテントを組み立てることができた。



午後は、当施設の職員が読み聞かせでの声の出し方や本の持ち方、会場の設営方法等について映像資料を交えながら解説した。その後、事前に対象年齢を幼児と設定しておいた絵本を使って、グループの参加者に向けて読み聞かせボランティア活動を体験していただいた。その後グループ内では、読み聞かせを聞いた参加者が読む役割の参加者へ、「本の持ち方は体の横がいいよ。」「声の出し方がいいね。」等のアドバイスをしていた。2回目の読み聞かせではアドバイス通りに行って、上達した読み聞かせを披露した。最後に参加者は法人ボランティアの登録制度についての説明を聞いた。

○成果と課題

<成果>

- 参加者はボランティア活動するにあたり、安全面や子供たちに対する心構えなどについて、実際に対応している職員から講話を聞いたことで、ボランティアに対する考え方を再認識でき、磐梯青少年交流の家以外でもセミナーを受講できた本講座の有用性を認識していた。
- 自然の中でのテント設営ができなかったが、野外での宿泊活動や防災活動でも必要になってくる技能なので、室内で実施できたことが有意義な活動だったとの感想がみられた。

<課題>

- 茨城県水戸生涯学習センターの3日間のボランティア養成講座の中で、最後の1日で当機構のボランティア養成共通カリキュラムに準拠したプログラムであったため、時間数の確保が重要であった。
- 法人ボランティア制度の知名度が浸透していない地域に対して、更なるアプローチが必要であると感じた。

## 4 東日本大震災復興支援プロジェクト

令和4年度 教育事業

「第8期 福島子ども未来塾1回目」



【期 日】令和4年6月25日(土)～6月26日(日)  
1泊2日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

### ○共催・後援・協賛・協力

主 催：国立青少年教育振興機構

後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会

協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団

主 管：国立磐梯青少年交流の家

協 力：NPO 法人じぶん未来クラブ、一般財団法人 United Sports Foundation (五十音順にて表記)

### ○事業趣旨

- 東日本大震災で福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OB・OGをボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

### ○福島子ども未来塾1回目のねらい

- 東日本大震災について学び、防災について考え、ふるさとである福島県に貢献しようとする意識を高める。
- 1年間を通して学ぶ仲間と協力して取り組むことの大切さを知る。

### ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
6/25 (土)						受付	第8期 福島子ども 未来塾 開塾式	移動	昼食	荷物 移動	ワークショップ	休憩	震災講話	休憩・ 移動	野外炊飯(防災炊飯)			休憩	調べ学習 について	入浴
6/26 (日)	起床 準備式 片付け 後始末	朝の つどい	朝食	避難点検 荷物移動	作文指導	防災ワークショップ		昼食	記念 撮影	まとめ 閉講式	解散									

### ○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子25名、女子23名）

中学1・2年生（男子6名、女子6名）

内 容：開塾式、防災教育（震災講話・防災ワークショップ・防災炊飯）

概 要：第8期の塾生同士の初顔合わせとなる1回目は、開塾式・防災炊飯・防災ワークショップなどの「減災・防災」プログラムを中心に活動した。1日目は日本と他国との避難所の違いや、東日本大震災の復興に向けた願いなどを学んだり、考えたりした。防災炊飯では空き缶ご飯とカレー作りをした。薪に火を付けることに苦戦したが、無事にカレーを作って食べることができた。2日目は、避難所を想定したクロスロードゲームを通じて意見の交換をした後に、身近な物で防災グッズ（スリッパ・雨具）を作った。



### ○成果と課題

#### <成果>

- ・アンケートで「東日本大震災について勉強はしたことがあるが、ここまで詳しく学習したことはなかった」と感想を書いた塾生がいた。防災について意識を高めるよいきっかけとなった。
- ・避難所を想定したクロスゲームでは、日常生活で起こりうる身近な課題ということもあり、一生懸命考える姿や塾生同士意見を交換する姿が多く見られた。
- ・防災炊飯、グループワーク等の活動を通して、協力しながら活動することでいいアイデアが出たり、目標に向かって最後までやり遂げることができたなどの感想を書いたりした塾生がいた。

#### <課題>

- ・塾生やボランティアスタッフの学生の中で缶切りなどを使ったことがない塾生が多くいた。現状把握の甘さから、大きく時間を経過してしまったり、ケガにつながりそうなヒヤッとした場面があったりした。計画する段階で、できて当たり前という概念を捨てて、時間に余裕をもった指導計画を作成することの重要性を感じた。

# 事業報告

令和4年度 教育事業

「第8期 福島子ども未来塾2回目」



【期 日】令和4年7月16日(土)～18日(日)  
2泊3日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

## ○共催・後援・協賛・協力

- 共 催：国立磐梯青少年交流の家
- 後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会
- 協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団
- 主 管：国立磐梯青少年交流の家
- 協 力：NPO法人じぶん未来クラブ

## ○事業趣旨

- ワークショップを通して、自分や仲間のことをより深く知る。
- ダンスの自己を表現する力を高めよう
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OBOG をボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

## ○福島子ども未来塾2回目のねらい

- ①心を開いて、表現する楽しみを学ぶ。
- ②楽しいことにチャレンジする喜びを学ぶ。
- ③チームで1つのことを成し遂げる喜びを知る。

## ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
7/16(土)						受付	Meet	昼食	休憩	グループワークに チャレンジ		Meet&Greet ワークショップ&ゲーム	夕食	休憩	振り返り 連絡	荷物 移動	休憩	入浴	消灯	
7/17(日)		朝食	準備		Meet&Greet ワークショップ		休憩	昼食	準備	Show		振り返り	夕食	休憩	調べ学習つ てどうい う風に進める のか。		休憩	入浴	消灯	
9/25(日)		朝食	準備		チャレンジ宣言		仲間のいい 所を伝え合 おう	昼食	準備	Meet										

## ○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子25名、女子23名）  
 中学1・2年生（男子4名、女子6名）  
 内容：自己を表現する力を高めるためのダンスプログラム

概 要： 子供達は、恥ずかしさや不安から緊張の表情の子が多かった。じぶん未来クラブの皆さんの簡単なゲーム、フラッグづくりを通して子供たちの表情がほぐれた。「HEART Global」のキャストとの出会いやゲーム、ダンスなどを通して笑顔いっぱいに取り組む子供達の姿が多く見られた。今回のHEART Globalの歌やダンスのチャレンジを通して、成功した経験、仲間意識が強くなった。振り返りを通して、次の未来塾までチャレンジしたいことを考え、「本気を出していきたい」、「諦めないこと」、「進んで発表していく」、「お手伝いをしていきたい」など様々なチャレンジすることが聞けた。様々な事にチャレンジして成長するきっかけとなるものを多く得ることができた。



## ○成果と課題

### <成果>

- ・表現ゲームやダンスのワークショップを通して、キャストのすごさや伝える楽しさを実感した、「Show」に向け緊張しながらも何度も練習したことで、「やり遂げて自信がついた」と振り返る子供が多かった。
- ・ダンスプログラムを通してチャレンジする大切さを学び、日々の生活でもチャレンジすることを決め、仲間に伝えることができた。
- ・仲間との関りが多く、仲間同士でいい所見つけ、多く伝える姿が見られた。

### <課題>

- ・プログラム全体の振り返りをじぶん未来クラブにやっていただきたかったが、出来なかったのでスタッフが対応した。





○共催・後援・協賛・協力

- 共 催：国立磐梯青少年交流の家
- 後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会
- 協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団
- 主 管：国立磐梯青少年交流の家
- 協 力：一般財団法人 United Sports Foundation

○事業趣旨

- 東日本大震災で福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OB・OG をボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

○福島子ども未来塾3回目のねらい

- ①様々なスポーツに触れ、その楽しさを実感する。
- ②様々なスポーツを通して、ルールを守ることや仲間と協力する大切さに気付く。
- ③チームメイトを応援したり、サポートしたりする喜びを実感する。

○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
9/23 (金)						受付	開式	セレモニー	昼食	休憩	クリニック① A:eスポーツ B:サッカー	クリニック② A: サッカー B:eスポーツ	振り返り	夕食	ユニホーム づくり	連絡	休憩	入浴	消灯
9/24 (土)			朝の挨拶	朝食	準備	クリニック③ 陸上競技	準備	朝食	休憩	クリニック④ A:セパタクロール B:モルック	クリニック⑤ A:モルック B:セパタクロール	振り返り	夕食	ユニホーム づくり	連絡		入浴	消灯	
9/25 (日)			朝の挨拶	朝食	準備	スポーツ大会 ①サッカー ②バレー	表彰式	式典	朝食	準備	閉会式								

○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子23名、女子20名）  
中学1・2年生（男子4名、女子4名）

内 容：スポーツにチャレンジ！

概 要：第3回は、United Sports Foundationによるスポーツワークショップでした。1日目は、サッカーとeスポーツ、ユニフォームづくりを、2日目は陸上競技（ランニング）、モルック、セパタクロールを、3日目はスポーツ大会を行った。子供たちは、どのワークショップでも、一生懸命チャレンジする姿、笑顔が多く見られた。ふりかえりでは、ワークショップで経験したことを踏まえて、次の目標を設定した。

閉会式では、「サッカーで失敗したことでその後、消極的になってしまったので、恐れずに前に出る」、「失敗などした子に、「大丈夫」などの言葉をかけることができた。」など自分の成長を実感できることが内容の感想を聞くことができ、協力すること、目標に向かうことの大切さやスポーツの楽しさを改めて感じる事ができた。



○成果と課題

<成果>

- ・初めてチャレンジするスポーツや自分の目標に向かって一生懸命取り組む塾生の姿が多く見られた。今まで走ることに苦手意識があった子が、自分の走りが変わったと実感し、笑顔いっぱい振り返り時に伝えてくれた。
- ・モルックやセパタクロールなどのスポーツの楽しさを実感することができた。
- ・ユニホーム作りやスポーツ大会のチーム応援を決める活動を通して、仲間への想いが深まり楽しく活動する姿が多く見られた。

<課題>

- ・eスポーツを体験する良い機会になったが、世界にチャレンジする生き方などの話がもう少し詳しく聞きたかった。家で行うゲームとあまり違いがないように感じた。

# 事業報告

令和4年度 教育事業

「第8期 福島子ども未来塾4回目」



【期 日】令和4年10月8日（土）～10日（月）  
2泊3日

【場 所】岩手県大船渡市、宮城県仙台市  
福島県南相馬市、浪江町、双葉町

## ○共催・後援・協賛・協力

- 共 催：国立磐梯青少年交流の家
- 後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会
- 協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団
- 主 管：国立磐梯青少年交流の家
- 協 力：あすびと福島、大船渡津波伝承館（大船渡市魚市場）、震災遺構仙台市立荒浜小学校、  
双葉町産業交流センター、震災遺構浪江町立請戸小学校、大平山霊園、棚塩産業団地

## ○事業趣旨

- 東日本大震災で福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OB・OG をボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

## ○福島子ども未来塾4回目のねらい

- 東日本大震災が私たちの生活に与えた影響を知る。
- 東日本大震災からの復興の状況を体感する。
- 復興の先の「創造」につながる現在の状況について知り、自分や福島の未来について考える。

## ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
10/8 (土)						受付	開講式	移動		大船渡プログラム		移動		入館式 荷物搬入 準備	夕食	入浴	ミーティ ング	就寝準備	
10/9 (日)		起床 朝食	出発準備 荷物搬出 退館式	移動	震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎 震災遺構仙台市立荒浜小学校 見学	移動	昼食		浪江プログラム	移動	道の駅 なみえ 見学	移動	入村式 荷物搬入 準備	夕食	準備	入浴	準備	ミーティ ング	就寝準備
10/10 (月)		起床 準備	朝食	出発準備 荷物搬出 退村式	移動	あすびと福島プログラム	昼食	休憩	閉講式										

## ○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子23名、女子20名）  
中学1・2年生（男子5名、女子5名）

内 容：東日本大震災を知る、震災遺構をめぐる、復興の状況を知る

概 要：

第4回は、「震災・復興・創造・未来」をテーマに、岩手県、宮城県、福島県の東日本大震災による影響や復興の状況を、実際に現地に行き、見たり、聞いたりした。岩手県では、大船渡市を訪れ、津波による被害について、紙芝居と映像を使っでの講話を聞いた。宮城県では、仙台市の震災遺構を訪れ、実際の被害の状況を見ながら、解説を聞いた。福島県では、浪江町を訪れ、未来に向けて新たに創造している地域の状況を見た。子どもたちは、これまで話を聞いたり、写真や映像を見たりしただけだったので、実際の様子を見たことで、学びをより深めることができた。



## ○成果と課題

### <成果>

- ・実際に現地に行くことで、より具体的に東日本大震災の影響や復興の状況を知ることができた。
- ・これまで知識でしかなかった震災や復興が、実際の状況に触れたことで経験として身につけ、より深い学びとなった。
- ・将来の自分がどのような姿になりたいか、未来の福島県がどのようなになればよいかなどを、自分の言葉で表現することができた。

### <課題>

- ・バス移動の時間が長くなり、また、地域の行事などにより道が混んだりしたことで、計画が大幅にずれてしまった。

# 事業報告

令和4年度 教育事業

「第8期 福島子ども未来塾5回目」



【期 日】令和4年12月10日(土)～11日(日)  
1泊2日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

## ○共催・後援・協賛・協力

共 催：国立磐梯青少年交流の家

後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会

協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団、株式会社リオン・ドールコーポレーション

主 管：国立磐梯青少年交流の家

協 力：日本赤十字社福島県支部、アルファ電子株式会社、猪苗代青年会議所、猪苗代町の皆様

## ○事業趣旨

- 東日本大震災で福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OB・OGをボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

## ○福島子ども未来塾5回目のねらい

- これまでの学習で学んだことを生かして、防災についてより深く考える。
- 応急手当や防災の講義・実習を通して、自分や家族、仲間を生かす手段を身につけ、日頃から必要な準備を知る。
- 地元福島県に根ざし、夢をもって頑張っている方の話を聞き、今、自分ができることを考え、実践する。

## ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
12/10 (土)						受付	開講式	【講義・実習】(昼食含む) 災害時炊き出し体験 応急手当 災害時シミュレーション			休憩	【講話・実習】 (夕食含む) 夢を語る①		検温 休憩	【講話・実習】 夢を語る②		荷物 搬入 準備 等	入浴	就寝 準備	
12/11 (日)	起床 準備	朝食	部屋点検 移動	プレ発表会	休憩 移動	作文作成	昼食	開講式												

## ○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子21名、女子18名）

中学1・2年生（男子5名、女子5名）

内 容：災害時炊き出し、応急手当、災害時シミュレーション、  
講話・実習（夢を語る）、プレ発表会

概 要：

第5回は、「防災・減災」「夢と未来」をテーマに、OB・OGとともに活動を行った。「防災・減災」では、災害時における生活面の行動について、実習を通して学んだ。子どもたちは、1人でできることは少ないが、多くの仲間と協力することで解決できることが多いということを実感した。「夢と未来」では、地元福島県を元気ある場所にしようと活動している方々から講話をしていただき、子どもたちは自分たちに何ができるかを考えることができた。



## ○成果と課題

### <成果>

- ・災害時に、自分がどのような行動をとればよいか具体的なわかったり、仲間とコミュニケーションをとることの大切さを改めて知ったりできた。
- ・食事を自分たちでつくすることで、食物の大切さに気づき、体験することがより一層大事であるとわかった。
- ・「夢と未来」の講話を聴き、地元福島県の将来の姿を想像し、より具体的に考えや意見を出すことができた。

### <課題>

- ・OB・OGの立ち位置の明確化、意識づけが必要だと感じた。現段階では、そのための時間を確保することが難しく、方法を模索しているところである。
- ・発表会資料の事前指導が十分とは言えないので、子どもたちや保護者とのこまめなやり取りをできるような仕組みづくりを行いたい。

# 事業報告

令和4年度 教育事業

「第8期 福島子ども未来塾6回目」



【期 日】令和5年2月4日(土)～5日(日)  
1泊2日

【場 所】国立磐梯青少年交流の家

## ○共催・後援・協賛・協力

- 共 催：国立磐梯青少年交流の家
- 後 援：文部科学省、復興庁、福島県教育委員会
- 協 賛：公益財団法人東日本大震災復興支援財団
- 主 管：国立磐梯青少年交流の家
- 協 力：有限会社 山形屋本店

## ○事業趣旨

- 東日本大震災で福島県や近県でどのようなことが起きていたかを調べ、震災を受けた人の気持ちを理解しながら、今、起こりうる災害に対する自助・共助・公助の精神を醸成する。
- 様々な学習・体験活動を通して、多面的・多角的な視点から自分のことを見つめ直し、未来への希望をもって行動できるようにする。
- 仲間と共に福島県の未来について考え、これから自分たちが福島県の復興を支えるために何ができるかを考え、広く発信する。
- 未来塾生（高校生・大学生）OB・OGをボランティアとして募集し、活動を通じて交流を深め、これまでの体験や経験を先輩塾生から学ぶ。

## ○福島子ども未来塾6回目のねらい

- 1年間で学んだことをまとめ、自分の言葉で伝える。
- 冬ならではの活動を通して、安全面を確認しつつ、精一杯楽しむ。
- 福島県がもつ伝統工芸に触れ、その良さを再発見する。

## ○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
2/4 (土)						受付	開講式 諸連絡	昼食	準備 移動	雪上安全講習 雪上活動	片づけ 移動	創作活動	修了制作	片づけ 移動	夕食	休憩 移動	閉塾式 リハーサル	入浴 準備	入浴	就寝 準備
2/5 (日)		起床 準備	朝食	部屋点検 移動	発表会 準備・練習	発表会	閉塾式の 発表練習	昼食	準備 移動	閉塾式	最後の あいさつ									

## ○参加者・内容・概要

参加者：小学5・6年生（男子17名、女子20名）  
 中学1・2年生（男子3名、女子5名）  
 内 容：雪上安全講習・雪上活動、創作活動（会津絵ろうそく）、  
 調べ学習発表会、閉塾式

概 要：

第6回は、「冬季の安全確保」「1年間のまとめ」をテーマに活動を行った。「冬季の安全確保」では、春夏秋と比較した気候の違いや雪上を中心とした安全な活動のしかたを学び、実際に外に出て雪遊びを行うことで学びを深めた。「1年間のまとめ」として、調べ学習発表会、閉塾式を行った。塾生が興味を持ったことを調べ、発表した。まとめ方や発表の仕方などそれぞれ工夫がされており、みんなが集中して取り組むことができた。閉塾式では、1年間のまとめにふさわしい返事、態度で終えることができた。



## ○成果と課題

### <成果>

- ・雪国とはいえ、雪があまり降らない地域からの参加者が多いので、雪上活動はプログラムとして必要であることがわかった。
- ・創作活動として、福島県の伝統工芸品を紹介しながら、簡単な体験も入れたことで、子どもたちも受け入れやすいと感じた。
- ・調べ学習発表会では、前回、事前に発表会練習を行い、多くの人から助言をもらったことで、子どもたちがより良い資料を作成し、より良い発表ができた。

### <課題>

- ・雪上活動で、事前に安全面などを現地踏査を通して確認したが、自然ということもあり、活動中に状況が変わってしまい、危険を感じる場面があった。
- ・閉塾式に向けての準備をもっと時間を確保して丁寧に行ってあげたい。子どもたち、保護者にとっても晴れ舞台であるので、最後まで格好いい姿を見せたい。

## 5 会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会事業

### ○事業目的

「体験の風おこそう」運動の普及啓発のために、福島県内及び山形県内の多くの子供たちに体験活動の楽しさを提供するとともに、保護者に体験活動の必要性や重要性を発信する。

### (1) 第6回いなわしろフェスティバル（詳細はP. 27参照）

### (2) 子どもの生活リズム向上山形県フォーラム

#### ① 内容

- ・記念講演「家族みんなで見直そう  
わが家のルールと生活リズム」  
東北大学加齢医学研究所脳科学部門  
認知行動脳科学研究分野及び大学院  
情報科学研究科 准教授 細田 千尋 氏

#### ② 期日・場所

- ・令和4年11月12日（土）山形市「遊楽館ホール」

※山形県では、他にも「庄内地区スキルアップ講座」等、ボランティアの育成に係る事業も実施した。



山形県フォーラムちらし

### (3) 地域イベントや他施設での「体験の風をおこそう」運動普及啓発活動

#### ① 事業目的

「体験の風をおこそう」運動の普及啓発のために、地域のイベントに積極的に出展を行い、体験活動の重要性について広く発信をしていく。

#### ② 期日 イベント名【場所・人数】

- ・令和4年5月22日（日）磐梯山開き  
【猪苗代登山口 70人】
- ・令和4年6月26日（日）猪苗代マラソン大会  
【猪苗代町運動公園 300人】
- ・令和4年7月18日（月）学びいな夏祭り  
【猪苗代町運動公園 248人】
- ・令和4年7月31日（日）磐梯まつり  
【猪苗代町運動公園 687人】
- ・令和4年10月16日（日）猪苗代ノルディック  
ウォーク【本所ふれあい広場 111人】
- ・令和4年11月12日（土）いなわしろ新そば祭り【道の駅いなわしろ 236人】
- ・令和5年1月10日（月）十日市【会津若松市野口青春通り 680人】
- ・令和5年1月13日（木）十三日市【猪苗代町中央商店街通り 318人】
- ・令和5年2月18日（土）裏磐梯雪まつり【裏磐梯サイトステーション 188人】



磐梯山開き（R4.5.22）

③ 成果

昨年度と比べるとイベントの中止も少なくなっており、可能な限り体験の普及啓発活動を実施した。コロナ禍でも子供たちや保護者、地域の方々に体験の機会を提供したことにより、あらためて体験活動の楽しさや重要性を実感していただくとともに、地域力向上の推進に努めることができた。

(4) 地域の学童クラブ等への出前講座

① 内容

学童クラブ等へ出前事業として缶バッジ作製やこども体験遊びリンピックの体験プログラムの提供、ニュースポーツの指導等を行った。

② 期日・会場・参加人数

・令和4年6月10日(金)	駒形児童クラブ	136人
・令和4年6月20日(月)	吾妻小学校放課後子ども教室	29人
・令和4年6月30日(木)	姥堂児童クラブ	61人
・令和4年7月5日(火)	松長第二こどもクラブ	80人
・令和4年7月15日(金)	猪苗代児童クラブ	120人
・令和4年7月5日(火)	松長第二こどもクラブ	80人
・令和4年7月21日(木)	塩川児童クラブ	167人
・令和4年7月21日(木)	磐梯町児童館	165人
・令和4年7月22日(金)	上三宮児童クラブ館	40人
・令和4年7月22日(金)	慶徳児童クラブ館	95人
・令和4年7月26日(火)	岩月児童クラブ館	25人
・令和4年7月26日(火)	喜多方市中央児童館	185人
・令和4年7月30日(土)	やまと児童クラブ	60人
・令和4年8月5日(金)	千里児童クラブ	33人
・令和4年8月8日(月)	日新こどもクラブ	133人
・令和4年9月3日(土)	行仁こどもクラブ	120人
・令和4年9月8日(木)	湊こどもクラブ	72人
・令和4年10月17日(月)	門田こどもクラブ	147人
・令和4年10月19日(水)	永和こどもクラブ	101人
・令和4年10月24日(月)	豊川児童クラブ	84人
・令和4年11月5日(土)	翁島児童クラブ	52人
・令和4年12月26日(月)	河東こどもクラブ	106人
・令和5年12月23日(金)	千里児童クラブ	23人

③ 成果

子供たちが興味をもって楽しむことができる体験活動の提供をすることで、体験活動の推進及び実行委員会の周知に効果があった。

(5) 「早寝早起き朝ごはん」国民運動普及啓発キャラバン

① 事業目的

子供の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる「早寝早起き朝ごはん」国民運動を積極的に展開することにより、子供たちの「よく体をうごかし、よく食べ、よく眠る」という当たり前で必要不可欠な生活習慣を保護者や子供、社会全体に普及啓発をしていく。

② 期日・会場・参加人数

・令和4年11月	1日(火)	西会津こゆりこども園	85人
・令和4年12月	2日(金)	北塩原村さくら幼稚園	28人
・令和4年12月	6日(火)	会津若松市広田保育所	100人
・令和4年12月	9日(金)	磐梯幼稚園	21人
・令和4年12月	13日(火)	猪苗代さくらこども園	44人
・令和5年	1月17日(月)	裏磐梯幼稚園	12人
・令和5年	1月19日(木)	猪苗代ひまわりこども園	156人
・令和5年	1月24日(火)	猪苗代こども園	47人

③ 成果

本所周辺の磐梯町、猪苗代町、北塩原村の幼稚園やこども園、保育所に募集案内を配付するとともに、ホームページで広報したところ、上記8ヶ所で「早寝早起き朝ごはん」国民運動を実施することができた。

今年度はコロナ感染対策を講じながら、絵本「よふかしおにとはやねちゃん」の紙芝居での読み聞かせ、早寝早起き朝ごはん体操、記念写真撮影の提供をした。参加した子供たちや職員の方々に「早寝早起き朝ごはん」の大切さを普及啓発することができた。



(6) 子どもゆめ基金説明会

① 事業目的

より多くの方々や青少年団体などに、子どもゆめ基金の趣旨を理解していただくとともに、申請の流れや申請書の書き方などの実務について知識を深めていただく。

② 期日・場所

- ・令和4年 9月10日(土) 吾妻学習センター
  - ・令和4年 9月11日(日) 茨城県日立市役所
  - ・令和4年11月12日(土) 山形市「遊楽館ホール」
- ※山形県フォーラムにおいて



ゆめ基金説明会 (R4.9.11)

(7) その他

① 猪苗代湖の自然を守る会との連携

○地元小学校の総合学習支援

- ・令和4年5月31日(火) 翁島小学校「湖面の植物についての講話」
- ・令和4年6月3日(金) 翁島小学校「川の水質調査1」四ヶ村堀・高橋川
- ・令和4年6月10日(金) 翁島小学校「猪苗代湖清掃」
- ・令和4年6月14日(火) 翁島小学校「アサザの移植」
- ・令和4年6月17日(金) 翁島小学校「ヒシ回収活動」
- ・令和4年6月27日(月) 翁島小学校「川の水質調査2」硫黄川・高森川
- ・令和4年9月5日(月) 翁島小学校「アサザの移植」
- ・令和4年9月13日(金) 翁島小学校「ヒシ回収活動」
- ・令和4年9月27日(火) 翁島小学校「アサザ種取り」
- ・令和4年9月30日(金) 翁島小学校「湖岸のヨシ刈り」
- ・令和4年11月21日(月) 翁島小学校「湖の水質調査」



川の水質調査  
(R4. 6. 27)

○猪苗代クリーンアクション2022の参加【計2回】

- ・令和4年4月23日(土)
- ・令和4年6月25日(土)

○ヒシ刈ボランティアとしての協力【計6回】

- ・令和4年8月5日(金)
- ・令和4年8月12日(金)
- ・令和4年8月26日(金)
- ・令和4年9月2日(金)
- ・令和4年9月9日(金)
- ・令和4年9月16日(金)

② 「体験の風をおこそう」スタンプラリー

国立磐梯青少年交流の家、国立磐梯那須甲子青少年自然の家、福島県会津自然の家、福島県郡山自然の家、いわき海浜自然の家の利用について継続的に利用している方に記念品を贈呈し、「体験の風をおこそう」運動の啓発を図ってきた。

③ 「体験の風をおこそう」カレンダー

国立磐梯青少年交流の家を中心に、会津・山形「体験の風をおこそう」運動実行委員会の構成団体で、「体験の風をおこそうカレンダー2023」を作成した。カレンダーの内容は各団体や施設の特色を紹介した内容にして、各構成団体を通して幅広く配布し、「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を図った。

## IV 令和4年度 研修支援等

### 1 総利用者数（令和5年3月15日現在見込み）

宿泊利用団体数	420 団体	宿泊総利用者数	42,672 人
日帰り利用団体数	523 団体	日帰り総利用者数	19,311 人
合計	943 団体	合計	61,983 人

### 2 月別利用者数（令和5年3月15日現在見込み）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
宿泊	1,274	4,539	6,344	7,177	5,058	3,714	3,410	1,307	703	2,759	3,842	2,545
日帰り	1,475	1,703	2,724	2,813	1,689	1,207	2,511	1,389	887	1,656	609	648
合計	2,749	6,242	9,068	9,990	6,747	4,921	5,921	2,696	1,590	4,415	4,451	3,193

### 3 宿泊団体種別利用状況（令和5年3月15日現在見込み）

種別	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	大学等	特別支援 学校	青少年 団体等	官公庁・ 企業等	その他
割合	3.5%	14.3%	24.2%	2.5%	1.2%	0.5%	20.9%	30.3%	2.5%

### 4 都道府県別利用状況（令和5年3月15日現在見込み）

種別	福島県	茨城県	宮城県	埼玉県	東京都	千葉県	新潟県	その他
割合	47.7%	17.0%	15.8%	5.9%	5.1%	4.3%	2.8%	1.5%

# V 施設概要

## 1 職員組織

○所長 佐川 正人

○次長 葛岡 丈治

### ○事業推進室

主任企画指導専門職 藤山 晶

次席企画指導専門職 齋藤 央 顕

企画指導専門職 鈴木 昭 夫

企画指導専門職 長谷川 芳 幸

企画指導専門職 長谷川 芳 幸

企画指導専門職 江川 洋 介

企画指導専門職 菊地 諒 介

事業推進係長 白岩 悟

事業推進係主任 飯野 智

事業推進係員 直江 春 香

事務補佐員 熊倉 美 幸

事務補佐員 小泉 舞

### ○総務・管理係

#### ・総務担当

総務・管理係長 野矢 暁

総務・管理係員 飯山 和 也

事務補佐員 久保 愛

#### ・管理担当

会計専門職 高橋 幸 子

総務・管理係主任 久保 草 平

事務補佐員 杵 鞭 正 光

技能補佐員 菊地 賢 一

技能補佐員 棚 木 一 雄

(令和5年2月23日現在)

## 2 国立磐梯青少年交流の家のあゆみ

昭和 39. 12. 18	国立第 3 番目の青年の家設置場所を福島県耶麻郡猪苗代町に決定
41. 1. 7	第 1 期工事【本館・講堂棟・宿泊棟西側】竣工(宿泊定員 200 名)
41. 4. 4	所歌「若人の道」制定
5. 22	開所式挙行
42. 3. 30	第 2 期工事【体育館、宿泊棟東側】竣工(宿泊定員 400 名、体育館完成)
12. 10	キャンプ管理棟、総合グラウンド竣工
43. 8. 2	皇太子殿下同妃殿下御来所
44. 3. 20	第 3 期工事竣工(キャンプ場)
45. 5. 19	天皇皇后両陛下御来所、坂田文部大臣来所
8. 2	弓道場竣工
46. 3. 22	武道館竣工
5. 22	開所 5 周年記念式典挙行
47. 5. 22	門標完成
7. 27	三笠宮寛仁親王殿下御来所
51. 5. 22	開所 10 周年記念式典挙行
52. 9. 7	延宿泊利用者 100 万人突破記念式挙行
53. 3. 28	談話・喫茶コーナー設置
54. 3. 31	野外研修センター竣工
56. 5. 31	開所 15 周年記念事業(施設の一般開放)実施
57. 5. 30	猪苗代フェスティバル実施(以後平成 19 年まで毎年実施)
58. 4. 6	野口英世博士記念コーナー設置
61. 6. 7	開所 20 周年記念式典挙行
平成元. 8. 3	延宿泊利用者 200 万人達成記念式挙行
5. 12. 17	キャンプ場整備完了
7. 3. 20	食堂棟新営工事竣工
8. 9. 6 ～ 8	開所 30 周年記念事業挙行 (磐梯博覧会 '96～学術・文化、スポーツの祭典～)実施
10. 18	開所 30 周年記念式典挙行
9. 3. 14	野外炊飯棟新営、武道館全面改修工事竣工
11. 1. 22	休憩所、野外ステージ竣工
12. 3. 31	環境教育体験館・浴室工事完了
13. 3. 31	バリアフリー化工事(エレベーター、浴室)完了
13. 4. 1	独立行政法人国立青年の家本部が国立中央青年の家敷地内に設置され、それに伴い、独立行政法人 国立青年の家国立磐梯青年の家に移行
15. 12. 19	談話棟耐震改修工事完了
17. 1. 7	宿泊棟(西側)耐震改修工事完了
17. 12. 28	食堂厨房ドライシステム化工事完了

18. 4. 1	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター、独立行政法人国立青年の家、独立行政法人国立少年自然の家が統合して独立行政法人国立青少年教育振興機構が発足し、それに伴い、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家に移行
18. 5.22	開所 40 周年
19. 1.10	宿泊棟(東側)・講師棟耐震改修工事完了
20. 4. 1	課制(事業推進課、事業支援課)より次長制へ移行
22. 3.19	講堂棟耐震改修工事完了
22. 3.30	本館耐震改修工事完了
23. 1.31	屋外給排水管他改修工事完了
23. 3.13 ～ 8.31	福島県災害対策本部の要請により東日本大震災の避難指定施設として避難者受入れ(最大 403 名/日、延べ 22,626 名)
24.11.29	災害復旧工事完了
28. 3.30	体育館 LED 照明取り換え工事完了 食堂棟天井落下防止対策工事完了
28. 5. 8	開所 50 周年記念式典・祝賀会举行
28. 7.28	屋外ステージ ボルダリングホールド設置工事完了
28.10.31	自然観察室床改修工事完了
28.11. 7	こどもの森 ツリーデッキ設置工事完了
28. 1.17	こどもの森 東屋設置工事完了
29. 1.27	食堂棟テラス改修工事完了
29. 3.14	武道館 LED 照明取り換え工事完了
29.11.13	食堂棟屋根修繕完了
29.12. 4	講堂棟シャッター修繕完了
30. 3.20	防火設備改修工事完了
30. 6.26	環境教育体験館 天体観測ドーム他改修工事完了
30.11.30	本館・宿泊棟・体育館・環境教育体験館 エレベータ改修工事完了
令和元. 6. 3	オストメイト及びベビーシート新設工事完了
元. 6.20	多言語案内看板設置新設工事完了
元. 7.31	本館照明・第 3 営火場コンセント・野球場コンセント新設工事完了
元. 8. 9	食堂棟ベランダスロープ工事完了
元. 8.31	天体プロジェクションシステム新設工事完了
2. 2.14	第 6 研修室エアコン設置工事完了
3. 8.18	国土強靱化計画の一環により地域防災保管拠点施設として、令和 2 年度補正予算でライフラインの強靱化改修工事(ライフライン改修工事、受水槽設置工事、宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了、講堂棟ボイラー更新工事完了、非常用発電機更新工事完了、電気設備改修工事)開始
3.12. 3	受水槽設置工事完了(令和 4 年 11 月運用開始)
4. 1.20	ライフライン改修(宿舍棟屋上防水改修)工事完了
4. 1.20	宿舍棟エアコン設置及び宿舍棟等トイレ洋式化工事完了
4. 1.31	講堂棟ボイラー更新工事完了
4. 2.25	非常用発電機更新工事完了

4. 3. 4	電気設備改修工事完了
4. 3. 4	国土強靱化計画の一環による地域防災保管拠点施設としてのライフライン強靱化改修工事完了
4. 3.18	自動ドア防護柵設置工事完了

## ご協賛・ご協力いただいた皆様

アストロ光学工業株式会社	リオン・ドール猪苗代店
株式会社 セーフ観光	有限会社 六和林業
株式会社 旅行サロン	有限会社 森山ホトクリニック
有限会社 民芸処番匠	八ツ橋設備 株式会社
株式会社 山元工業所	安積汽工 有限会社
有限会社 関ビジネス	有限会社 中村金物店
渡部産業 株式会社	福島ノーミ 株式会社
渡部電気工業 株式会社	白河商事 株式会社
秋山ユアビス 建設株式会社	株式会社 ミツワ
有限会社 会津燃料	有限会社 タナカスポーツ
株式会社 阿部紙工	株式会社 ワタヤス
スローレンサービス 株式会社東北	有限会社 会津事務機販売
株式会社 会津防災設備センター	プリマックス 株式会社
有限会社 松江	株式会社 東北セイワ
有限会社 猪苗代工務店	太平ビルサービス株式会社郡山支店
有限会社 二葉印刷	フルテック 株式会社
日章産業 株式会社	会津リース 株式会社
株式会社 グリーセス	北日本印刷 株式会社
有限会社 バンダースポーツ	(順不同・敬称略)

ご協賛いただきまして誠にありがとうございます

